

2009年9月の地震活動の評価

1. 主な地震活動

目立った活動はなかった。

2. 各地方別の地震活動

(1) 北海道地方

- 9月8日に日高支庁東部の深さ約50kmでマグニチュード(M)4.8の地震が発生した。この地震の発震機構は西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震である。
- 9月29日に根室支庁北部の深さ約5kmでM4.5の地震が発生した。

(2) 東北地方

目立った活動はなかった。

(3) 関東・中部地方

- 9月4日に千葉県北西部の深さ約65kmでM4.5の地震が発生した。この地震の発震機構は西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートとフィリピン海プレートの境界で発生した地震である。
- 東海地方のGPS観測結果等には特段の変化は見られない。

(4) 近畿・中国・四国地方

目立った活動はなかった。

(5) 九州・沖縄地方

- 9月3日に薩摩半島西方沖の深さ約170kmでM6.0の地震が発生した。この地震の発震機構はフィリピン海プレートの沈み込む方向に張力軸を持つ型で、フィリピン海プレート内部で発生した地震である。
- 9月29日に沖縄本島北西沖でM6.1の地震が発生した。この地震の発震機構は北西-南東方向に張力軸を持つ正断層型で、沖縄トラフの拡大に伴う地震と考えられる。

(6) その他の地域

- 9月30日02時48分(日本時間)にサモア諸島でM8.0(アメリカ地質調査所による)の地震が発生し、日本の太平洋沿岸全域で津波を観測した。

補足

- 10月4日に台湾付近でM6.3の地震が発生した。

2009年9月の地震活動の評価についての補足説明

平成21年10月8日
地震調査委員会

1. 主な地震活動について

2009年9月の日本およびその周辺域におけるマグニチュード(M)別の地震の発生状況は以下のとおり。

M4.0以上およびM5.0以上の地震の発生は、それぞれ78回(8月は107回)および8回(8月は25回)であった。また、M6.0以上の地震の発生は2回で、2009年は9月までに13回発生している。

(参考) M4.0以上の月回数73回(1998-2007年の10年間の中央値)、
M5.0以上の月回数9回(1973-2007年の35年間の中央値)、
M6.0以上の月回数1.4回、年回数約17回(1924-2007年の84年間の平均値)

2008年9月以降2009年8月末までの間、主な地震活動として評価文に取り上げたものは次のものがあった。

— 十勝沖	2008年9月11日 M7.1
— 駿河湾	2009年8月11日 M6.5 (深さ約25km)
— 八丈島東方沖	2009年8月13日 M6.6
— 石垣島近海	2009年8月17日 M6.7, M6.6

2. 各地方別の地震活動

(1) 北海道地方

北海道地方では特に補足する事項はない。

(2) 東北地方

東北地方では特に補足する事項はない。

(3) 関東・中部地方

「東海地方のGPS観測結果等には特段の変化は見られない。」:

(なお、これは、9月28日に開催された地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会における見解(参考参照)と同様である。)

(参考)最近の東海地域とその周辺の地震・地殻活動(平成21年9月28日気象庁地震火山部)
「現在のところ、東海地震に直ちに結びつくような変化は観測されていません。

1. 地震活動の状況

8月11日に駿河湾でマグニチュード(M)6.5の地震が発生しましたが、その後、余震は減少しております。

浜名湖周辺のフィリピン海プレート内では地震の発生頻度が引き続き少ない状態になっています。一方、静岡県中西部の地殻内とフィリピン海プレート内、愛知県のフィリピン海プレート内では、地震活動がやや活発な状態となっています。その他の地域では概ね平常レベルです。

なお、8月30日から9月2日にかけて三重県で、また、8月31日から9月2日にかけて愛知県西部で深部低周波地震が発生しました。この付近では、本年5月から6月にかけて深部低周波地震が発生しています。

2. 地殻変動の状況

8月11日に発生した駿河湾の地震（M6.5）に伴う地殻変動以降は、全般的に注目すべき特別な変化は観測されていません。

GPS観測及び水準測量の結果では、御前崎の長期的な沈降傾向はこれまでと同様に継続しています。

なお、上記の深部低周波地震活動と同期して、プレート境界付近における「短期的ゆっくり滑り」に起因すると見られる地殻変動が8月30日から31日と、9月1日から2日にかけて周辺の歪計で観測されました。「短期的ゆっくり滑り」に起因する地殻変動が観測されたのは、本年6月上旬以来です。」

－8月11日に発生した駿河湾の地震（M6.5）の余震活動は減衰してきている。

（4）近畿・中国・四国地方

近畿・中国・四国地方では特に補足する事項はない。

（5）九州・沖縄地方

「9月29日に沖縄本島北西沖でM6.1の地震が発生した。（以下、略）」：

この付近では、8月18日頃から小規模な地震活動が発生していた。

－大分県西部の深さ約10kmの地殻内において、8月下旬頃からM3.9（8月31日）を最大とする地震活動が発生している。ほぼ同じ場所で、今年6月から7月にかけてもM4.7を最大とする地震活動が発生していた。

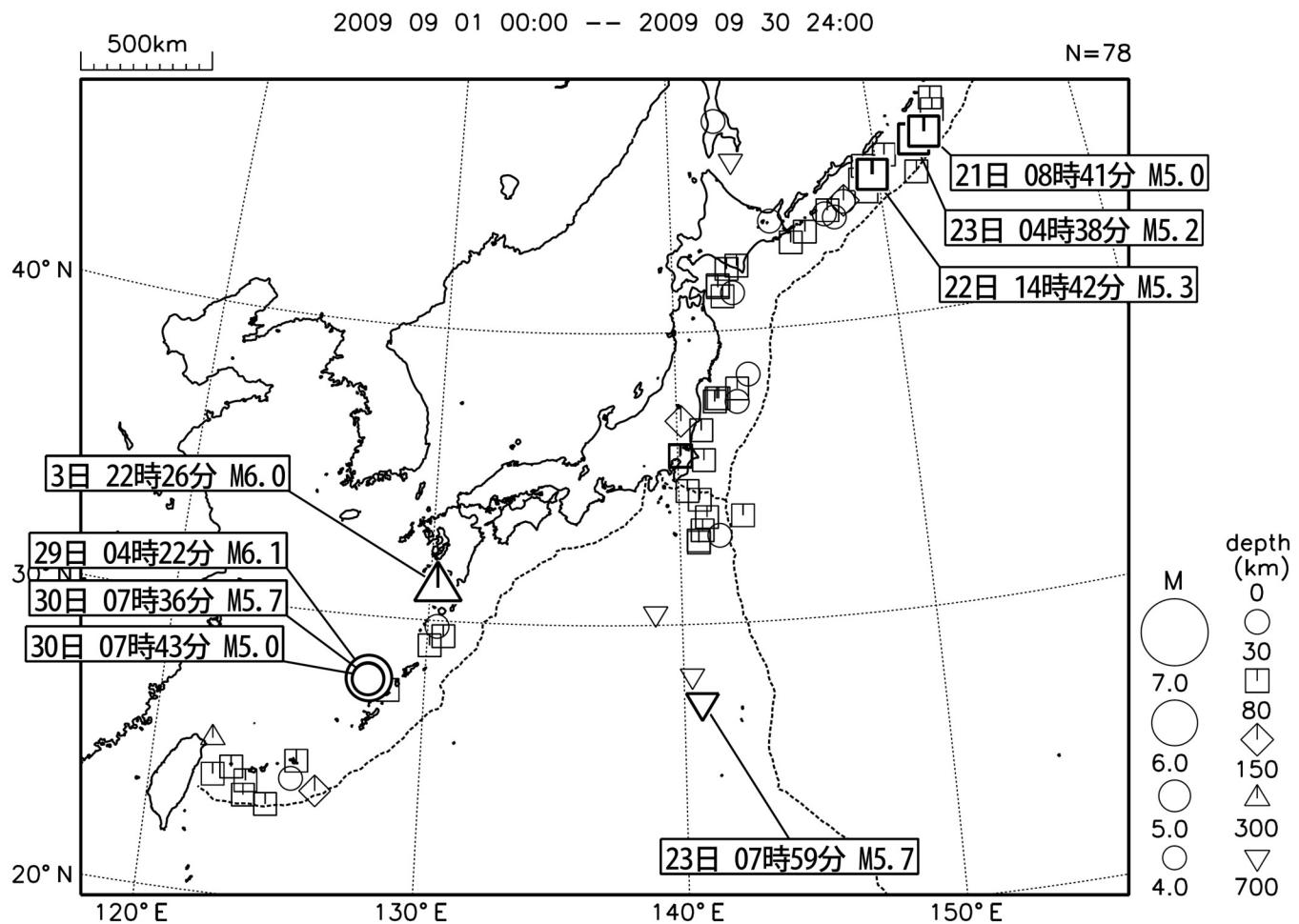
参考1 「地震活動の評価」において掲載する地震活動の目安

- ①M6.0以上または最大震度が4以上のもの。②内陸M4.5以上かつ最大震度が3以上のもの。
③海域M5.0以上かつ最大震度が3以上のもの。

参考2 「地震活動の評価についての補足説明」の記述の目安

- 1 「地震活動の評価」に記述された地震活動に係わる参考事項。
- 2 「主な地震活動」として記述された地震活動（一年程度以内）に関連する活動。
- 3 評価作業をしたもの、活動が顕著でなく、かつ、通常の活動の範囲内であることから、「地震活動の評価」に記述しなかった活動の状況。

2009年9月の全国の地震活動 (マグニチュード4.0以上)



9月3日に薩摩半島西方沖でM6.0の地震（最大震度4）が発生した。

9月29日に沖縄本島北西沖でM6.1の地震（最大震度3）が発生した。

（上記期間外）

10月4日に台湾付近でM6.3の地震（日本国内：最大震度2）が発生した。

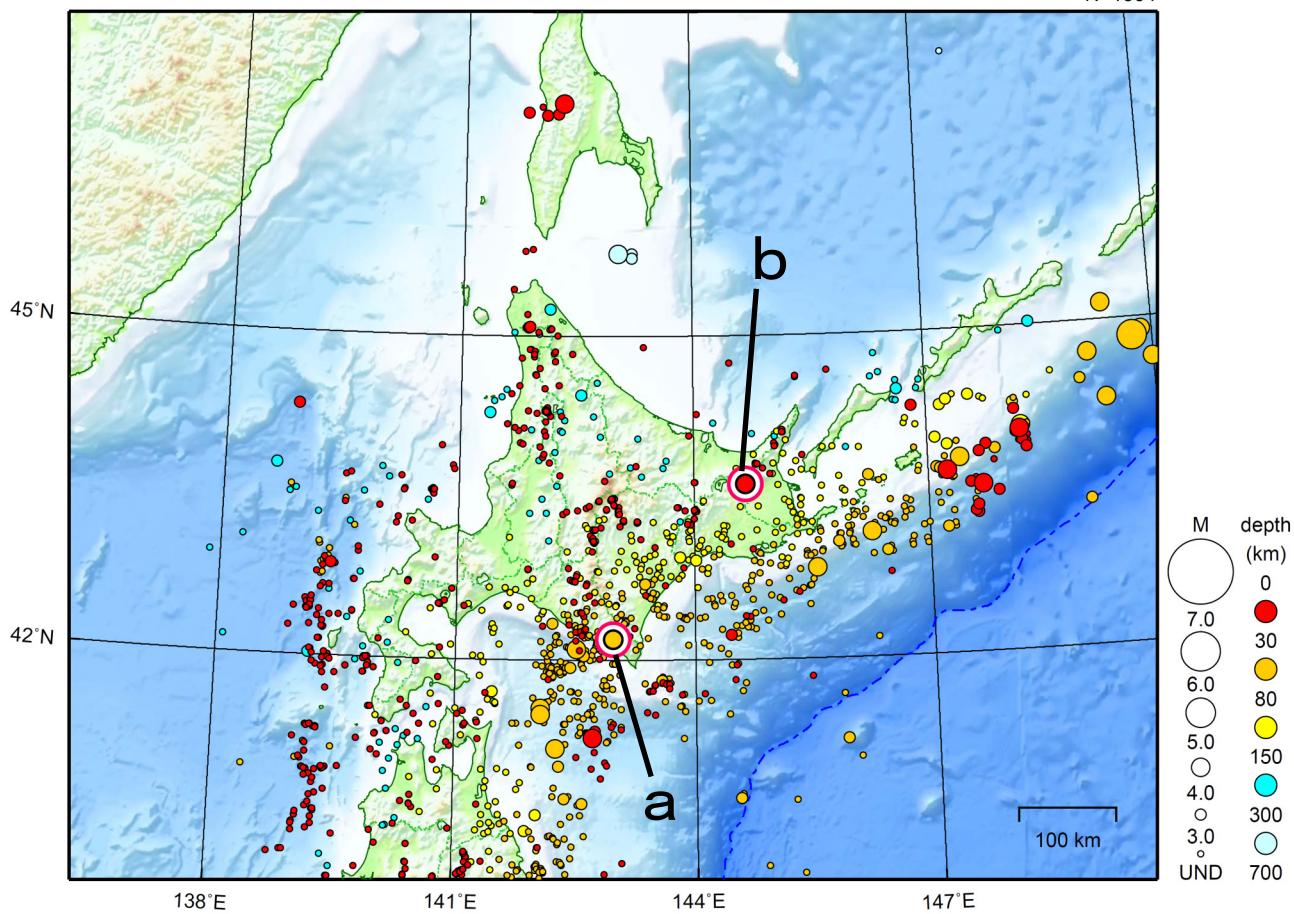
【図中に日時分、マグニチュードを付した地震はM5.0以上の地震、またはM4.0以上で最大震度5弱以上を観測した地震である。また、上に表記した地震はM6.0以上、またはM4.0以上で最大震度5弱以上を観測した地震である。】

気象庁・文部科学省（気象庁作成資料には、防災科学技術研究所や大学等関係機関のデータも使われています）

北海道地方

2009/09/01 00:00 ~ 2009/09/30 24:00

N=1364

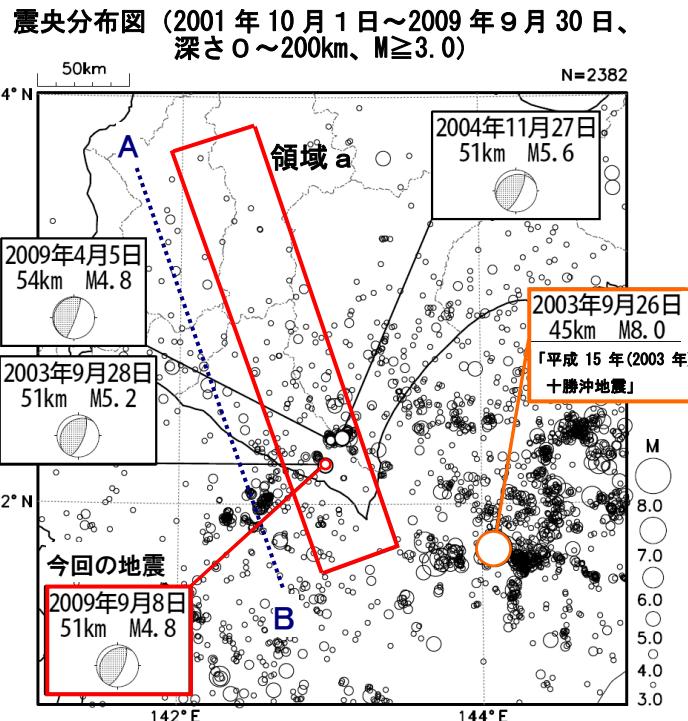


地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

- a) 9月 8日に日高支庁東部で M4.8 の地震（最大震度 4）が発生した。
- b) 9月 29日に根室支庁北部で M4.5 の地震（最大震度 4）が発生した。

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上のいずれかに該当する地震。]

9月8日 日高支庁東部の地震

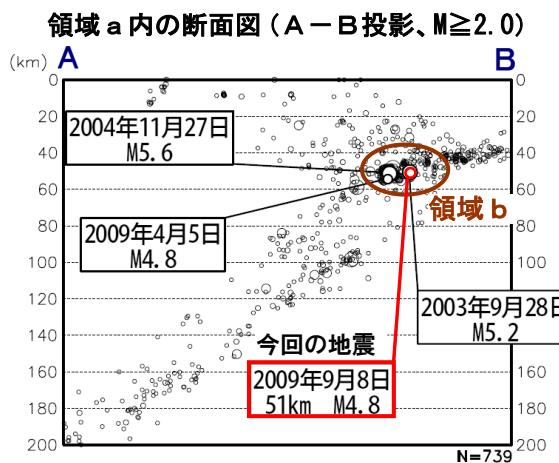


2009年9月8日01時24分に日高支庁東部の深さ51kmでM4.8の地震（最大震度4）が発生した。この地震の発震機構は西北西—東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震である。

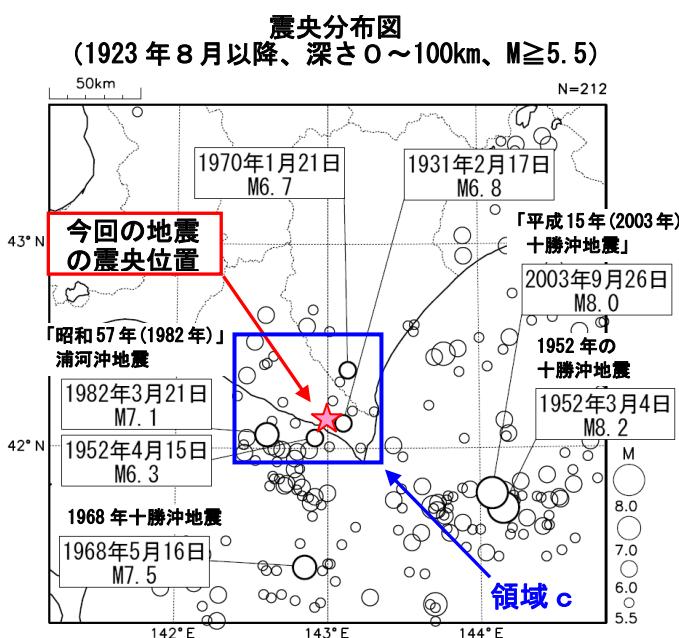
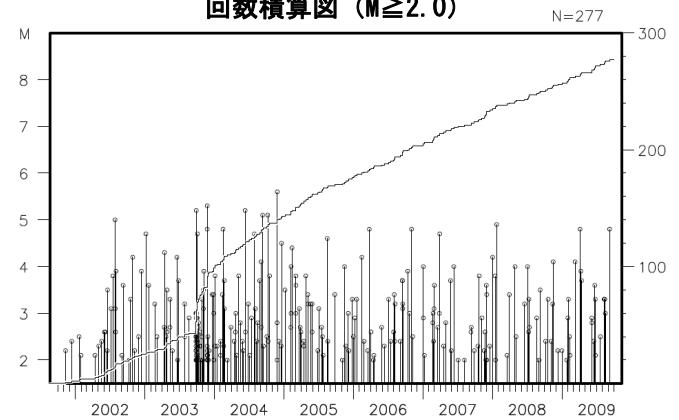
今回の地震の震源付近（領域b）は、「平成15年（2003年）十勝沖地震」の発生後に地震が増加した地域であり、2003年9月28日にはM5.2の地震（最大震度4）が発生している。

1923年8月以降の活動を見ると、今回の地震の震央付近（領域c）では、M6前後の地震がしばしば発生している。最大は「昭和57年（1982年）浦河沖地震」

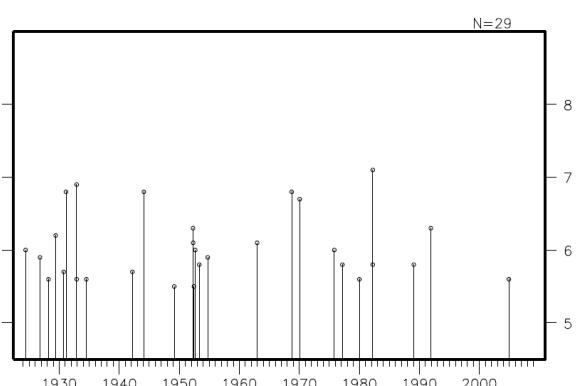
（M7.1、最大震度6）で、負傷者167名や建物の被害などを生じている（「最新版 日本被害地震総覧」による）。



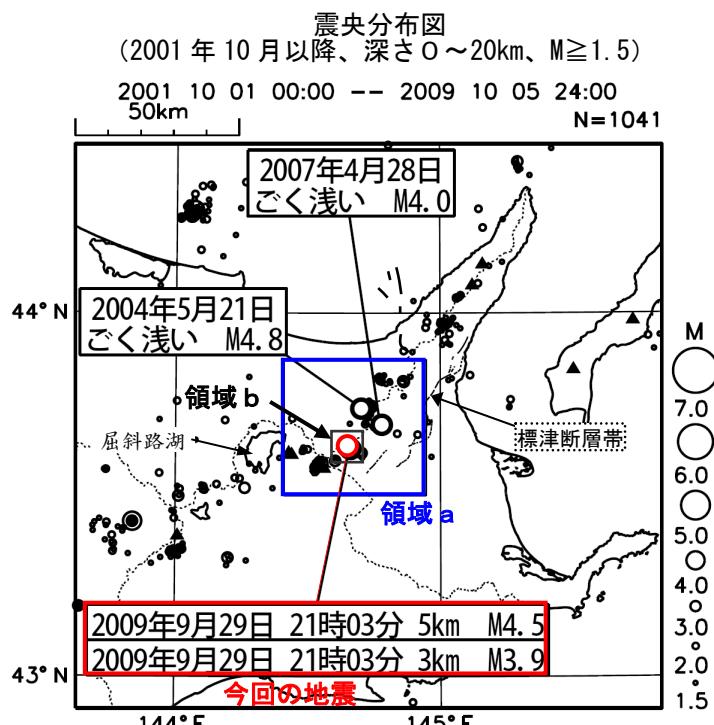
領域b内の地震活動経過図、回数積算図 (M≥2.0)



領域c内の地震活動経過図

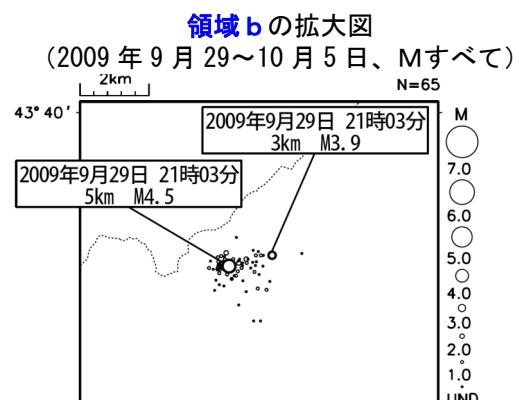


9月29日 根室支庁北部の地震

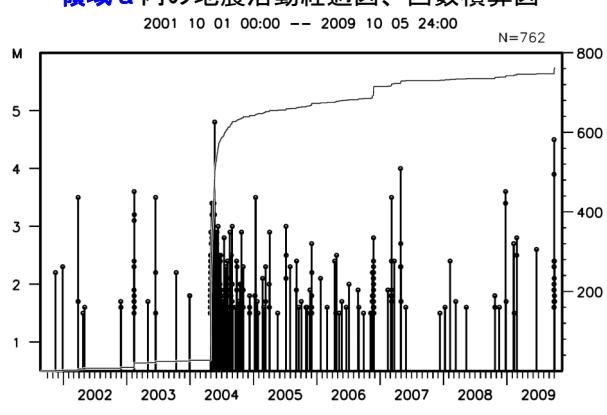


2009年9月29日21時03分に根室支庁北部の深さ5kmでM4.5の地震（最大震度4）が発生し、25秒後にはほぼ同じ場所でM3.9の地震が発生した。

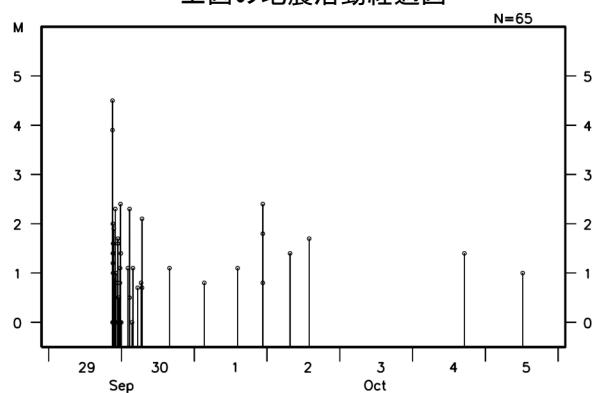
2001年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺（領域a）では、2004年5月にM4.8の地震を最大とする活発な地震活動があった。



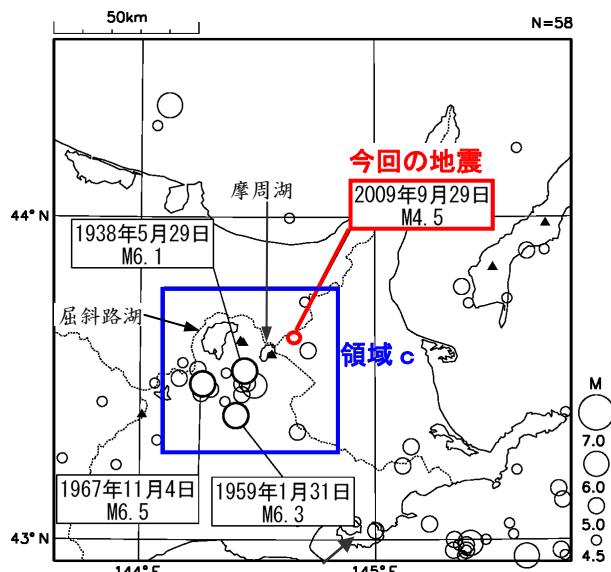
領域a内の地震活動経過図、回数積算図



上図の地震活動経過図

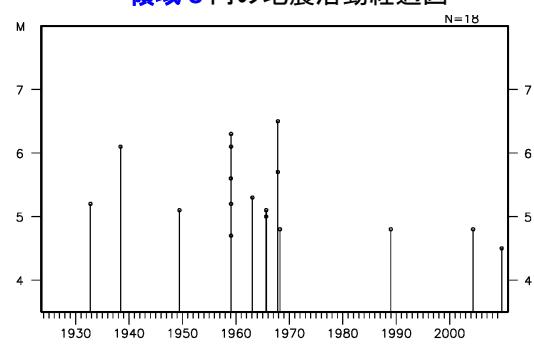


震央分布図
(1923年8月以降、深さ0~40km、M \geq 4.5)



1923年8月以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺（領域c）では1930~60年頃までM6クラスの地震が度々発生し被害を伴った（1938年5月の地震では死者2名他の被害（最新版 日本被害地震総覧による））が、1970年以降はM5.0以上の地震は発生していない。

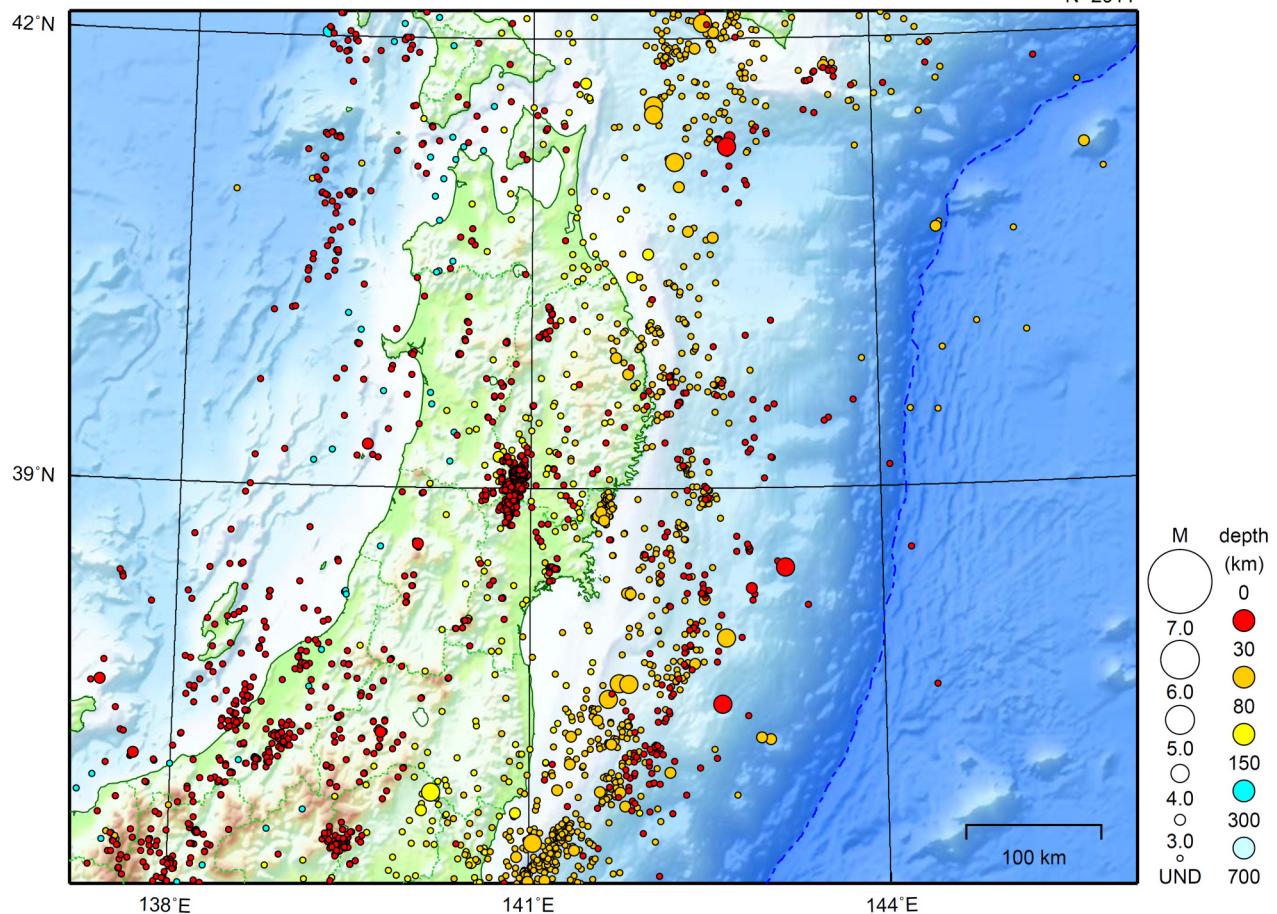
領域c内の地震活動経過図



東北地方

2009/09/01 00:00 ~ 2009/09/30 24:00

N=2911



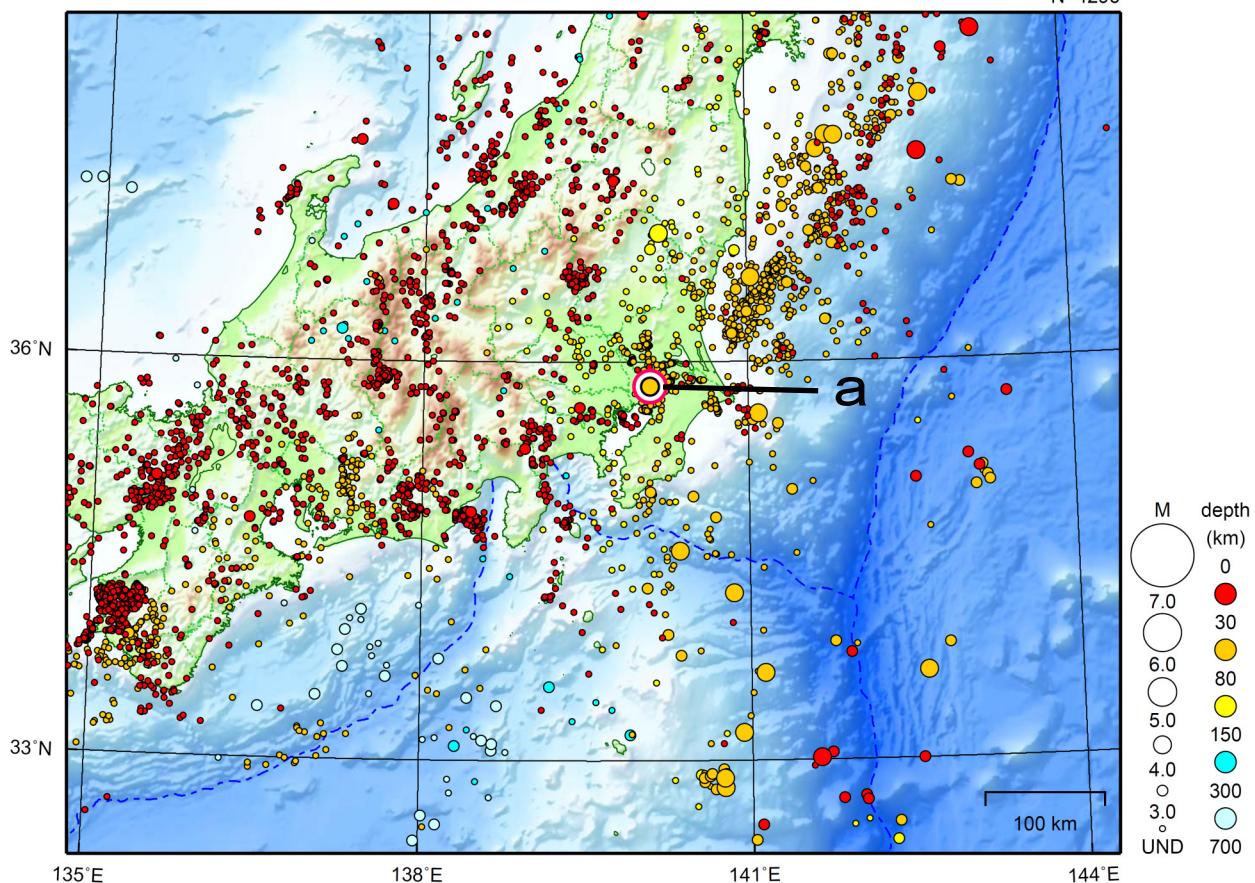
特に目立った活動はなかった。

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上のいずれかに該当する地震。]

関東・中部地方

2009/09/01 00:00 ~ 2009/09/30 24:00

N=4296



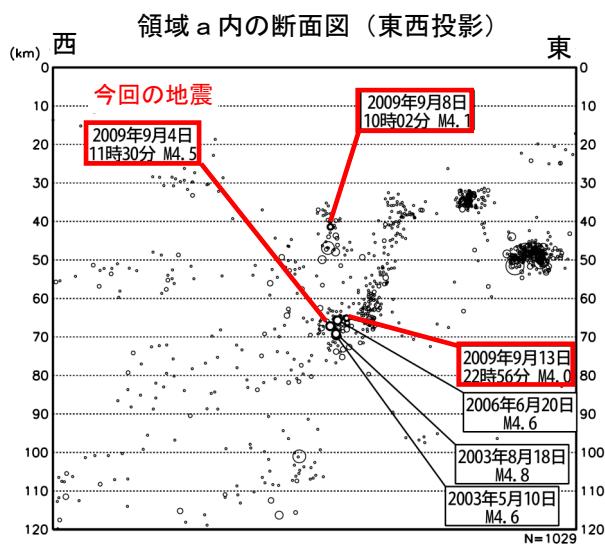
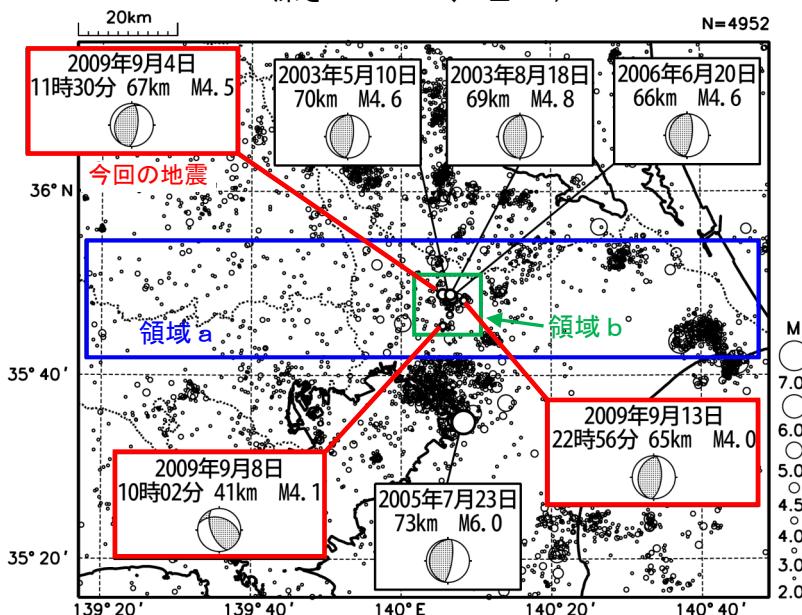
地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

a) 9月4日に千葉県北西部でM4.5の地震（最大震度3）が発生した。

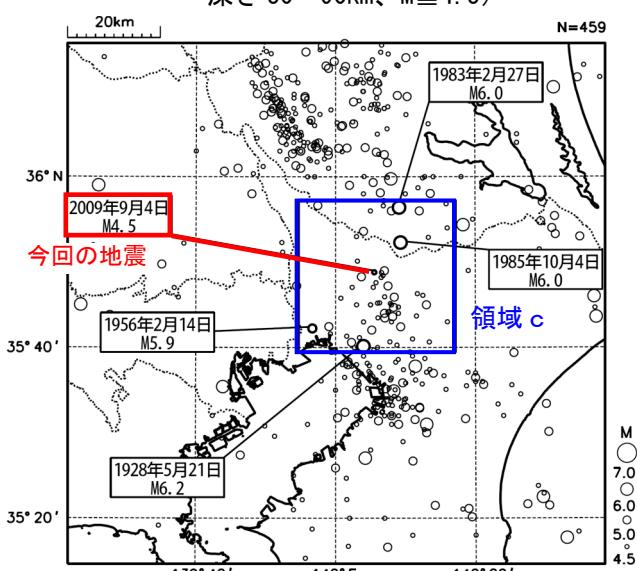
[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上のいずれかに該当する地震。]

9月4日 千葉県北西部の地震

震央分布図（1997年10月1日～2009年9月30日、
深さ0～120km、M≥2.0）



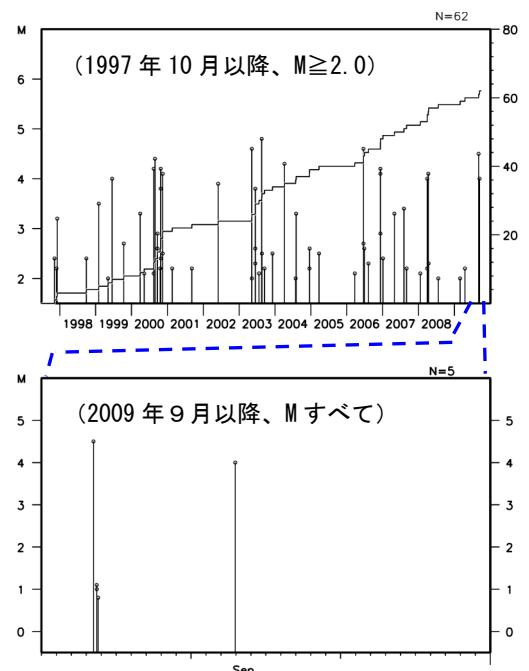
震央分布図（1923年8月1日～2009年9月30日、
深さ50～90km、M≥4.5）



2009年9月4日11時30分に千葉県北西部の深さ67kmでM4.5の地震（最大震度3）が発生した。発震機構は西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートとフィリピン海プレートの境界で発生した地震である。この近傍では、9月13日にもM4.0の地震（最大震度1）が発生した。なお、9月8日には、この南側でM4.1の地震（最大震度2）が発生したが、震源の深さはこれらより浅く（41km）、発震機構も異なる型である。

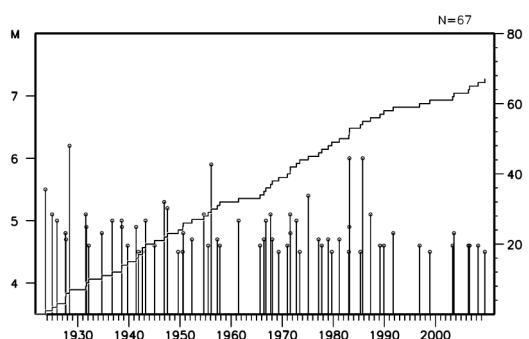
1997年10月以降、今回の震源付近（領域b）では、今回とほぼ同じ場所で、2003年8月18日のM4.8の地震（最大震度3）などM4.5以上の地震が時々発生している。

領域b内（深さ50～80km）の
地震活動経過図・回数積算図



1923年8月以降、今回の震央周辺（領域c、深さ50～90km）では、M6.0程度の地震が時々発生しており、領域cの南側や北側でも活発な地震活動がみられるが、M7.0以上の地震は発生していない。

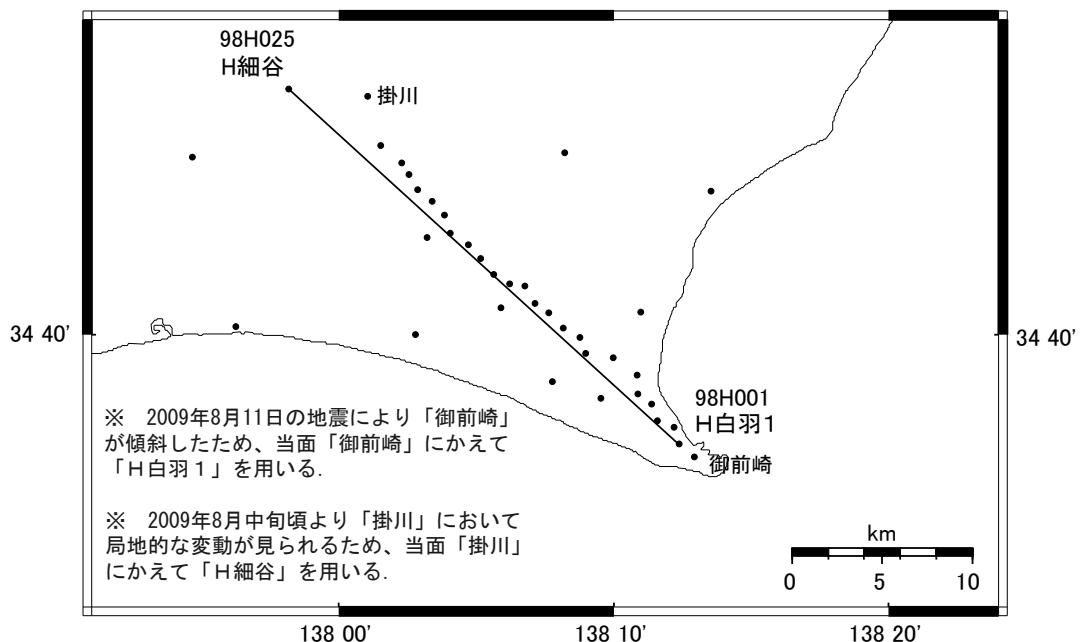
領域c内の地震活動経過図・回数積算図



掛川市－御前崎市間のGPS連続観測結果(斜距離・比高)

特段の変化は見られない。

H細谷・H白羽1 GPS連続観測基線図

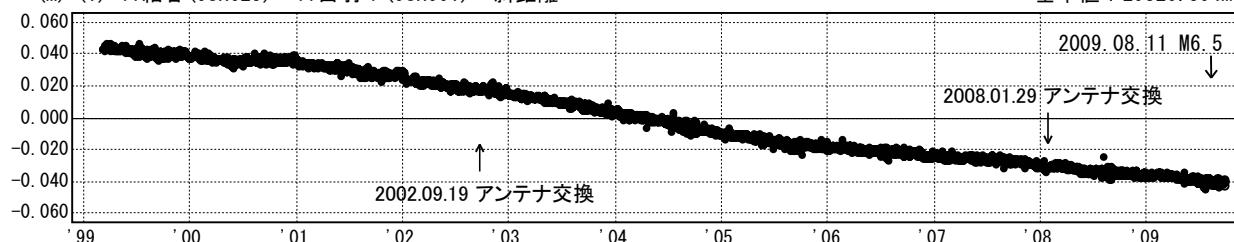


1999年1月からの基線変化グラフ(斜距離・比高)

期間：1999.01.01～2009.09.27 JST

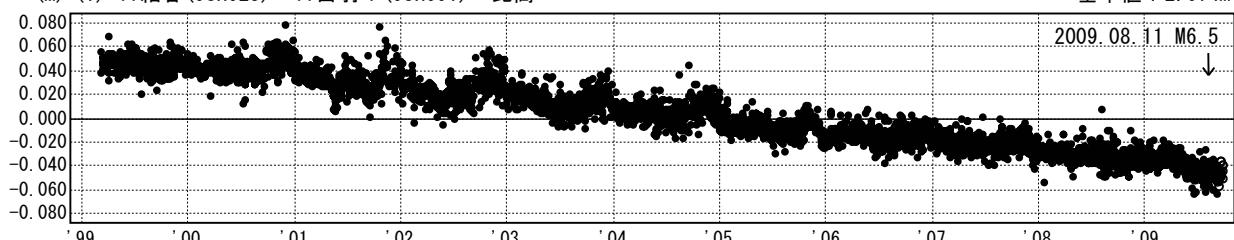
(m) (1) H細谷(98H025)→H白羽1(98H001) 斜距離

基準値：29320.594m



(m) (1) H細谷(98H025)→H白羽1(98H001) 比高

基準値：2.074m

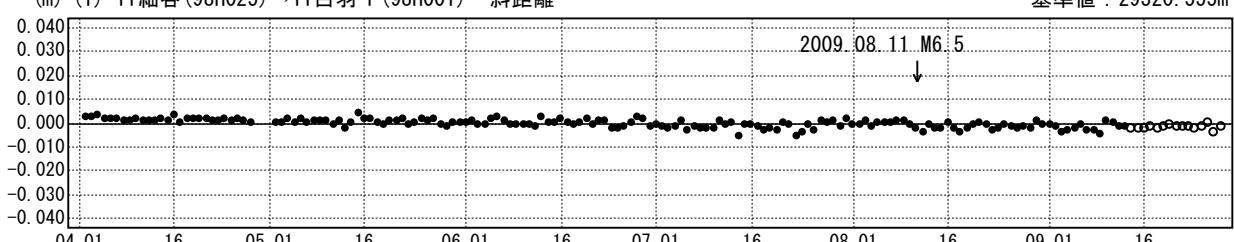


最近6ヶ月間の基線変化グラフ(斜距離・比高)

期間：2009.04.01～2009.09.27 JST

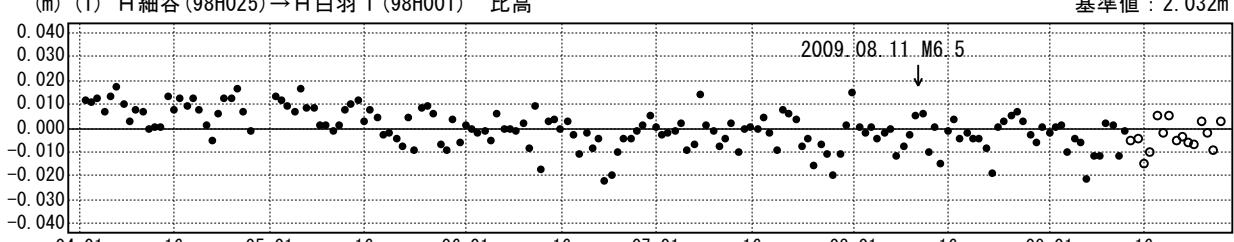
(m) (1) H細谷(98H025)→H白羽1(98H001) 斜距離

基準値：29320.555m



(m) (1) H細谷(98H025)→H白羽1(98H001) 比高

基準値：2.032m

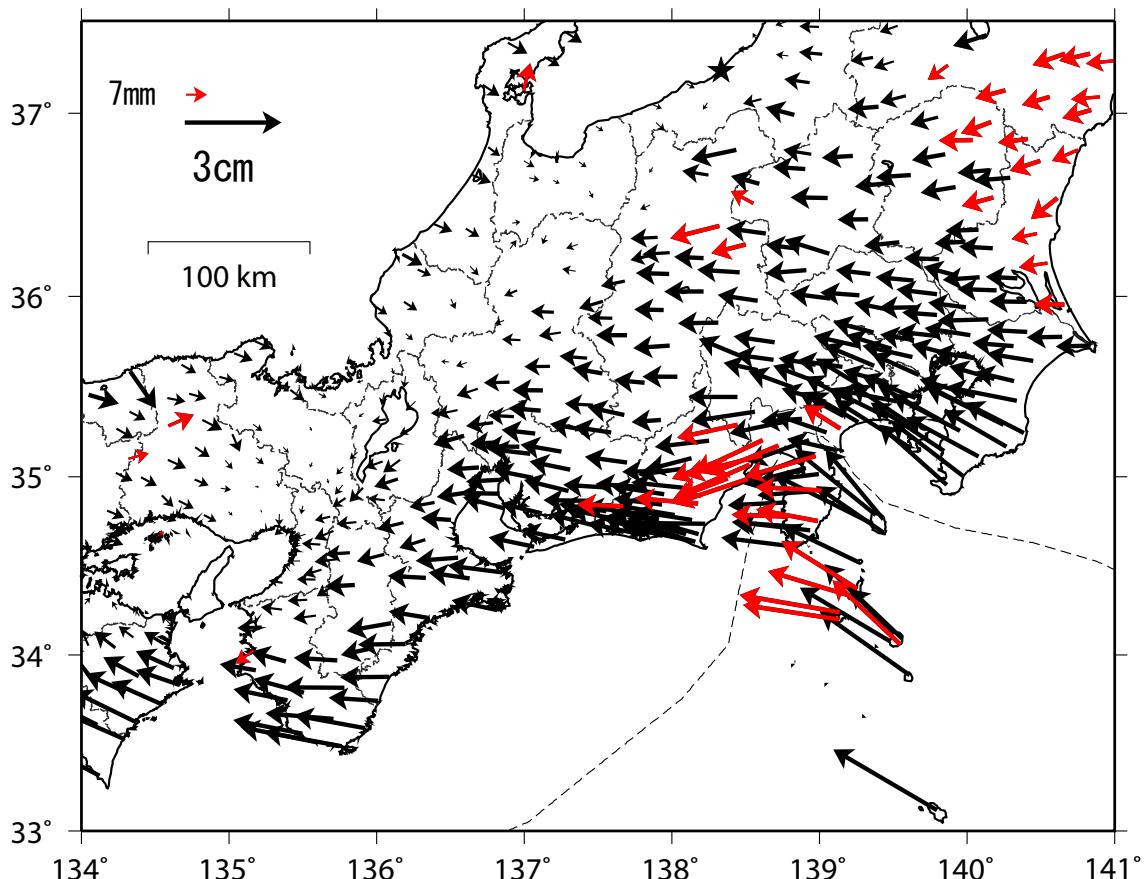


東海地方の最近の地殻変動（水平変動）【大渦固定】

(2008 年 8 月 ~ 2009 年 8 月)

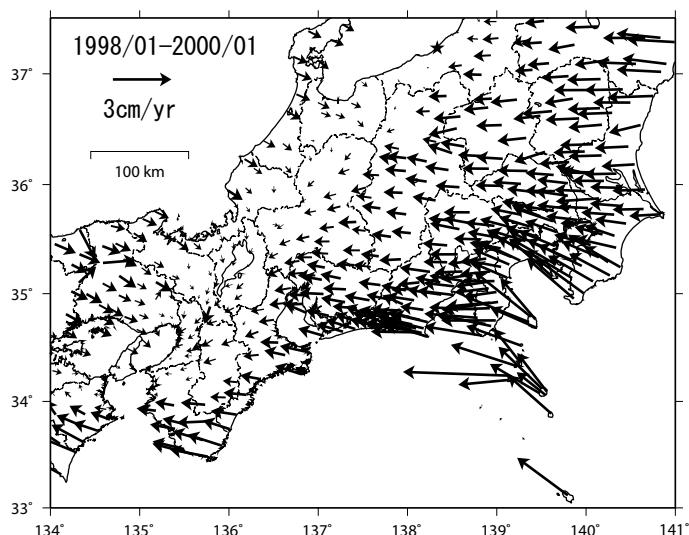
基準期間 : 2008/8/20 - 2008/8/29 [F3: 最終解]

比較期間 : 2009/8/20 - 2009/8/29 [F3: 最終解]

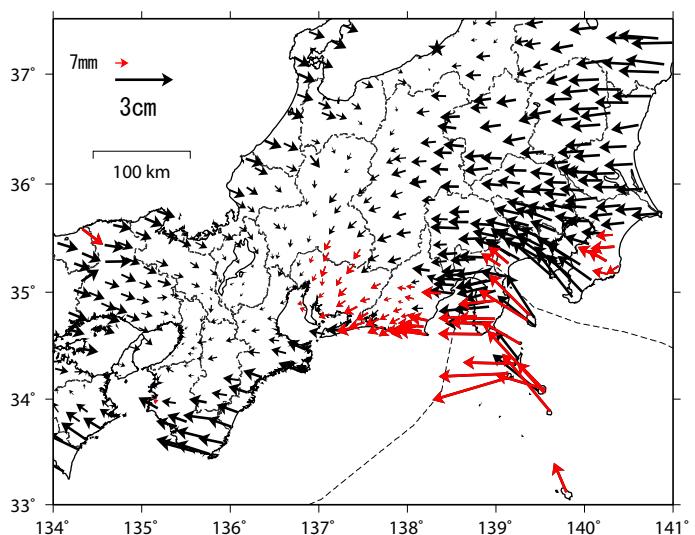


・スロースリップ開始前の変動速度ベクトル（左下図）との差の絶対値が 7 mm 以上の変動ベクトルを赤矢印で表示している。

スロースリップ開始以前の地殻変動速度
(1998 年 1 月 ~ 2000 年 1 月)

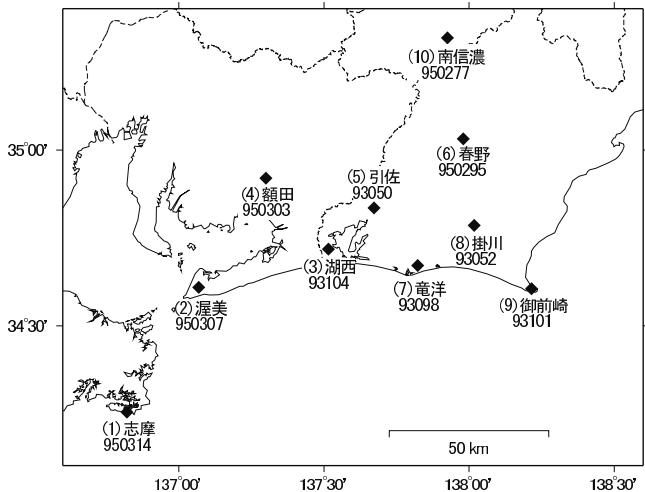


スロースリップ進行期の地殻変動速度
(2001 年 1 月 ~ 2004 年 1 月)

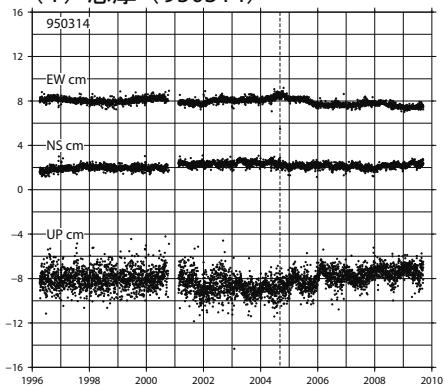


東海非定常地殻変動 時系列【大湯固定】(余効変動除去後)

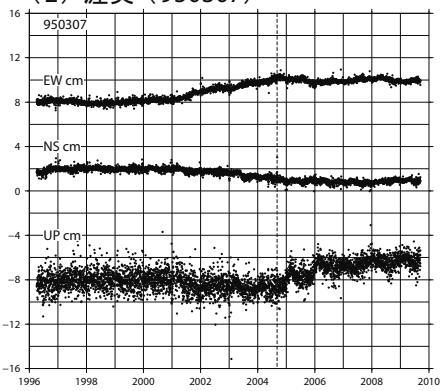
最終解 1996/4/10 – 2009/9/12



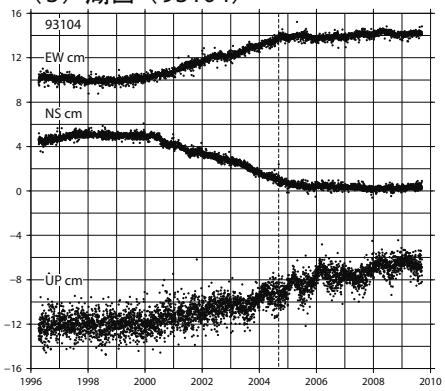
(1) 志摩 (950314)



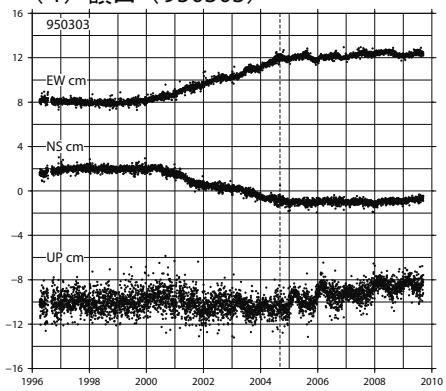
(2) 渥美 (950307)



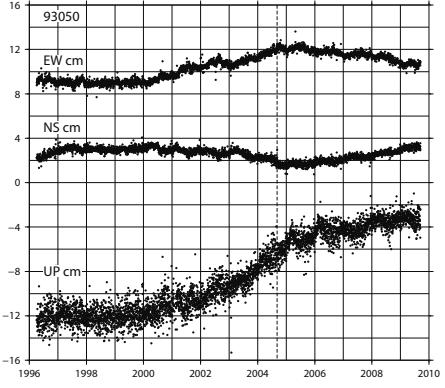
(3) 湖西 (93104)



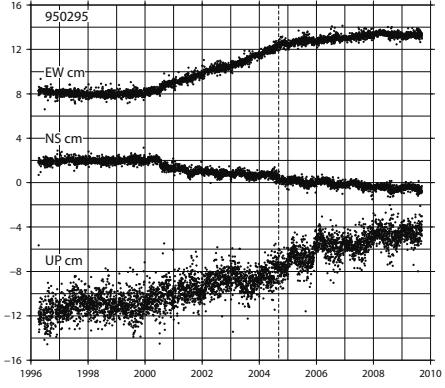
(4) 額田 (950303)



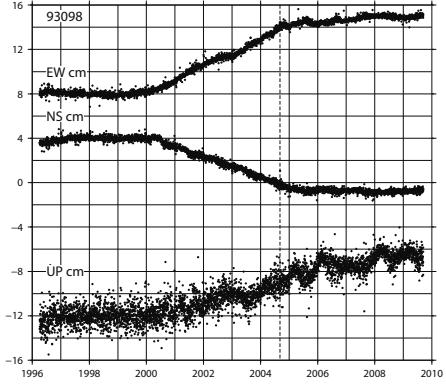
(5) 引佐 (93050)



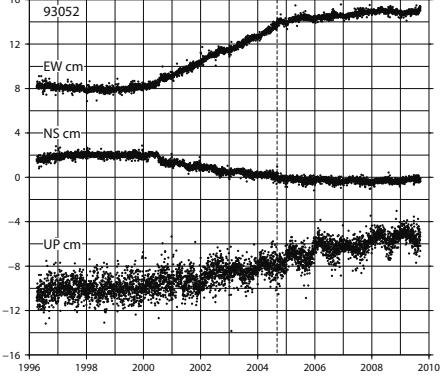
(6) 春野 (950295)



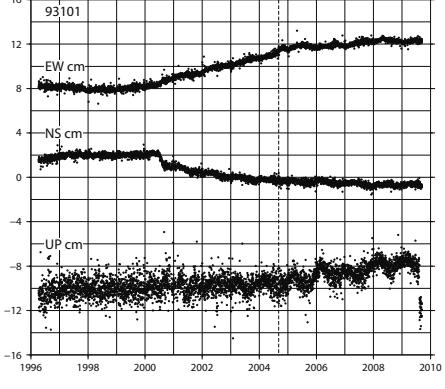
(7) 竜洋 (93098)



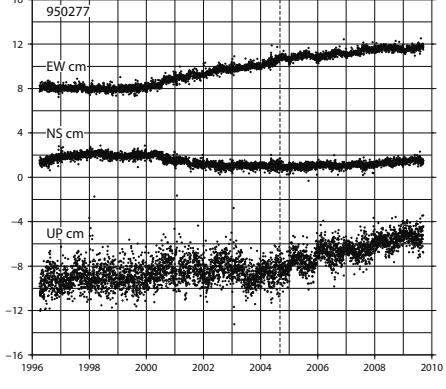
(8) 掛川 (93052)



(9) 御前崎 (93101)



(10) 南信濃 (950277)

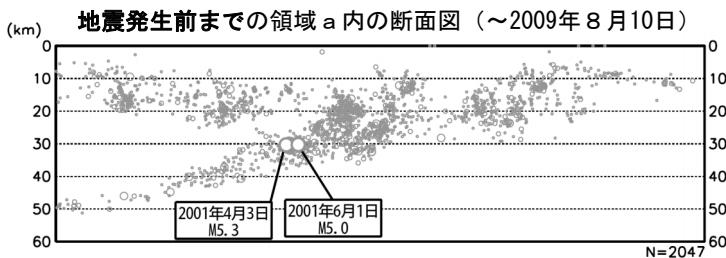
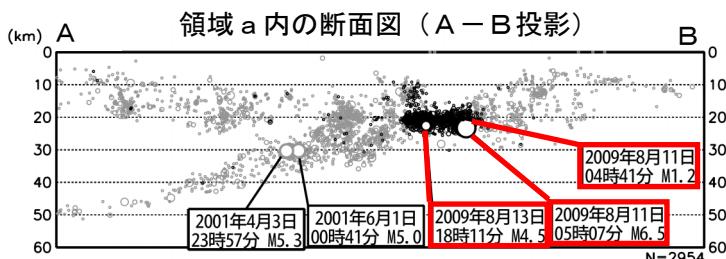
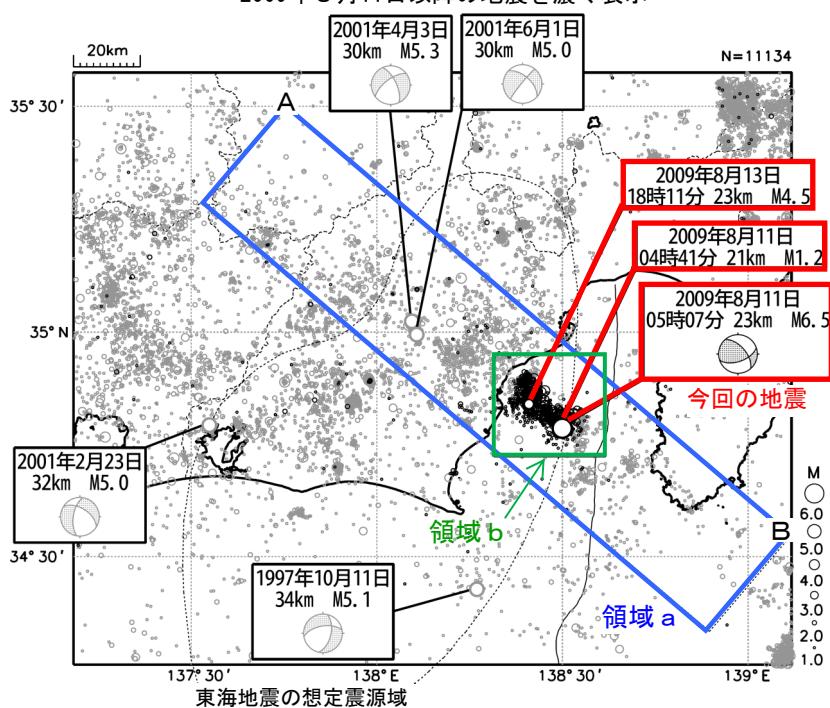


- 1997年1月～2000年1月のデータから平均速度を推定して、元の時系列データから除去している。
- 1998年1月～2000年1月のデータから年周/半年周成分を推定して、元の時系列データから除去している。
- 2003年以降の上下成分は年周/半年周成分を除去していない。
- 2004年9月5日に発生した紀伊半島南東沖の地震による地殻変動および余効変動の影響は取り除いている。
- 2004年10月23日に発生した新潟県中越地震による固定点大湯の地殻変動の影響は取り除いている。
- 2007年3月25日に発生した能登半島地震による固定点大湯の地殻変動の影響は取り除いている（水平成分のみ）。
- 2007年7月16日に発生した新潟県中越沖地震による固定点大湯の地殻変動の影響を取り除いている（水平成分のみ）。
- 2009年8月11日に発生した駿河湾の地震による地殻変動の影響は取り除いている（水平成分のみ）。

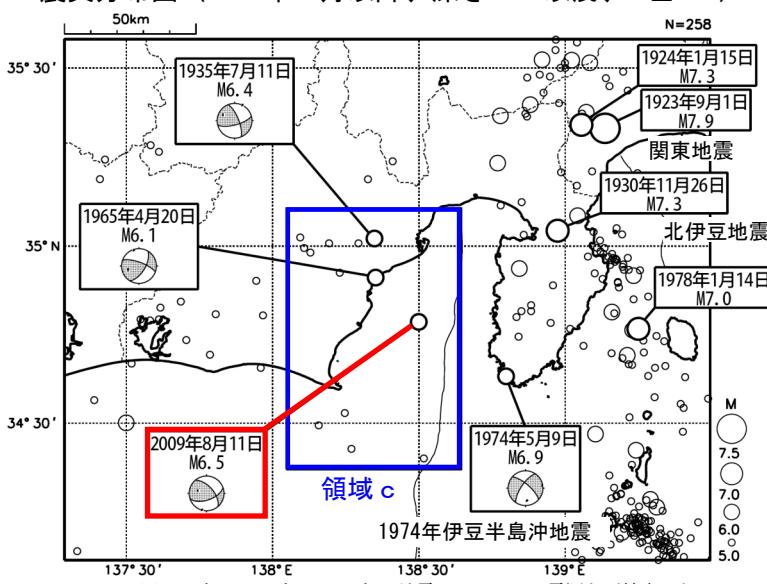
8月11日 駿河湾の地震(M6.5)とその余震活動

震央分布図 (1997年10月1日～2009年10月4日、
深さ60km以浅、M \geq 1.0)

2009年8月11日以降の地震を濃く表示



震央分布図 (1923年8月以降、深さ60km以浅、M \geq 5.0)

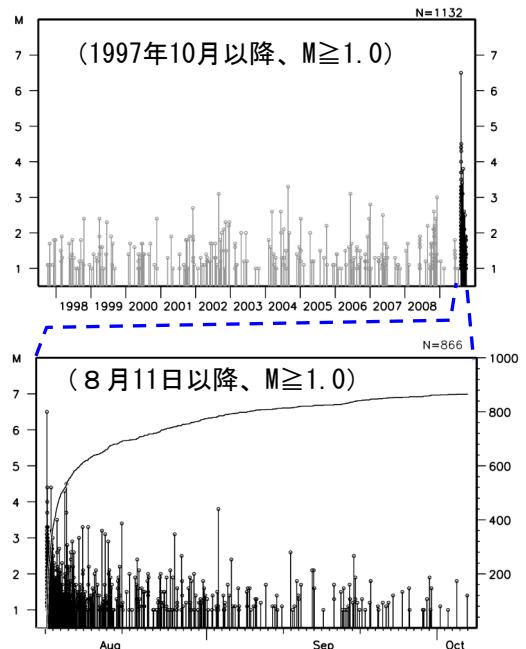


※1935年、1965年、1974年の地震については、震源を再精査した。

2009年8月11日05時07分に駿河湾の深さ23kmでM6.5の地震（最大震度6弱）が発生した。この地震により死者1名、負傷者319名などの被害が生じている（9月15日現在、総務省消防庁による）。発震機構は圧力軸が北北東-南南西方向の、横ずれ成分を持つ逆断層型で、フィリピン海プレート内で発生した地震である。余震は次第に減少している（これまでの最大は8月13日18時11分のM4.5の地震（最大震度3））。

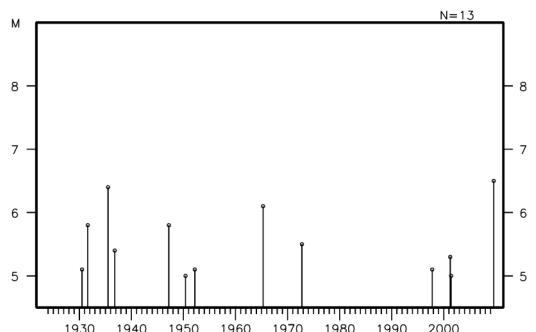
1997年10月以降、今回の震源域付近の地震活動は、北西側の静岡県内陸部や南東側の駿河湾中央部・伊豆半島沿岸と比べて比較的低調であった。

領域b内の地震活動経過図、回数積算図



1923年8月以降、今回の震央周辺（領域c）では、1935年にM6.4の地震（静岡地震）、1965年にM6.1の地震が発生している。

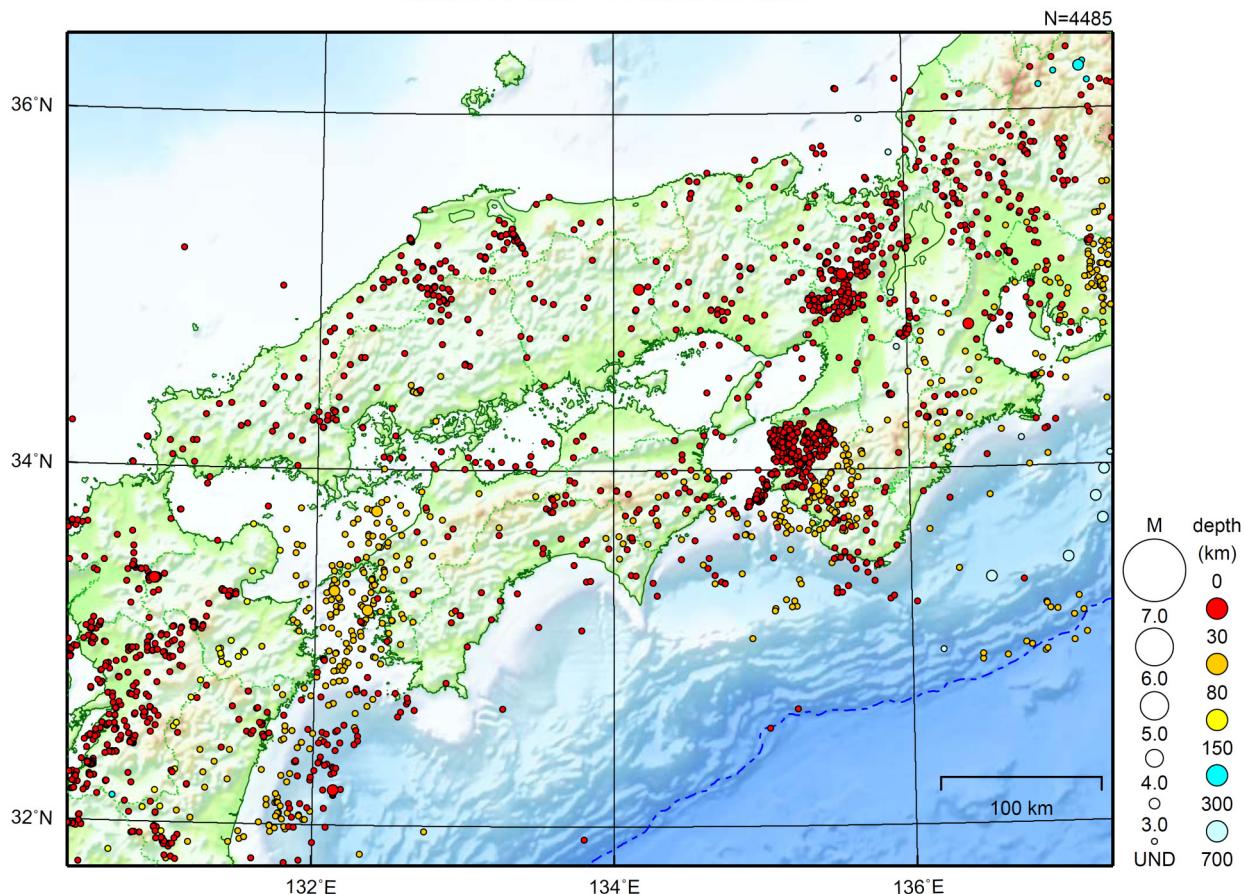
領域c内の地震活動経過図



気象庁作成

近畿・中国・四国地方

2009/09/01 00:00 ~ 2009/09/30 24:00



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

特に目立った活動はなかった。

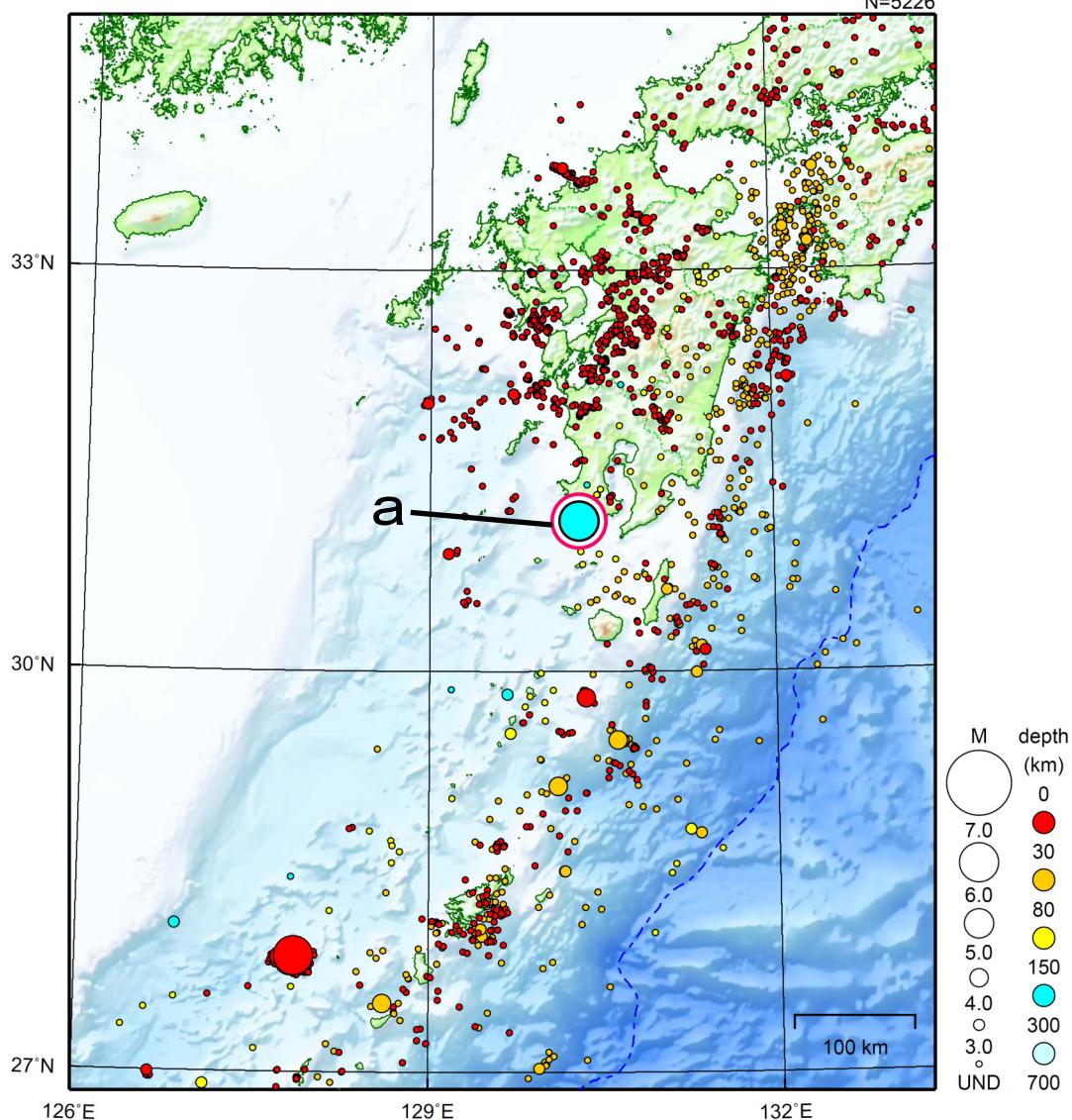
[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上のいずれかに該当する地震。]

気象庁・文部科学省

九州地方

2009/09/01 00:00 ~ 2009/09/30 24:00

N=5226



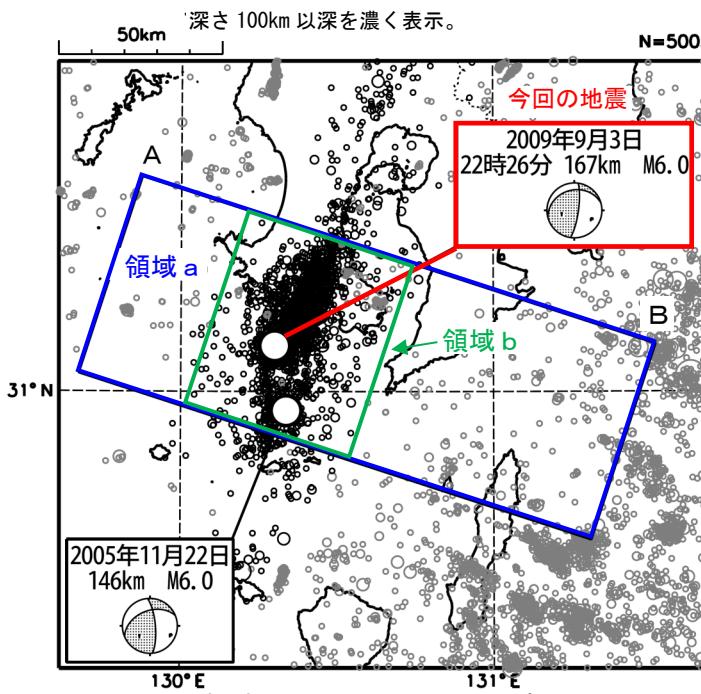
地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

a) 9月3日に薩摩半島西方沖で M6.0 の地震（最大震度4）が発生した。

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度4以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度3以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]

9月3日 薩摩半島西方沖の地震

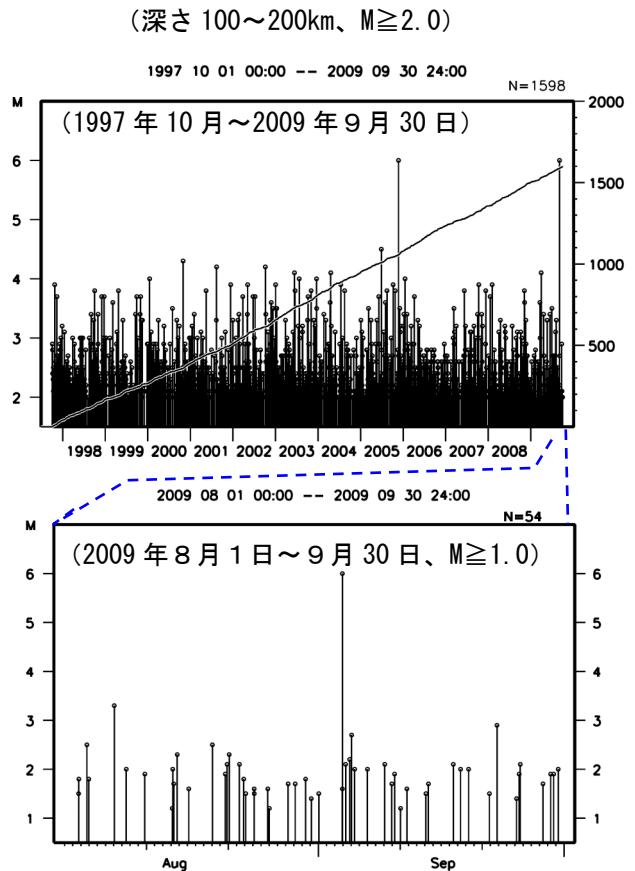
震央分布図（1997年10月1日～2009年9月30日、深さ0～200km、M≥2.0）



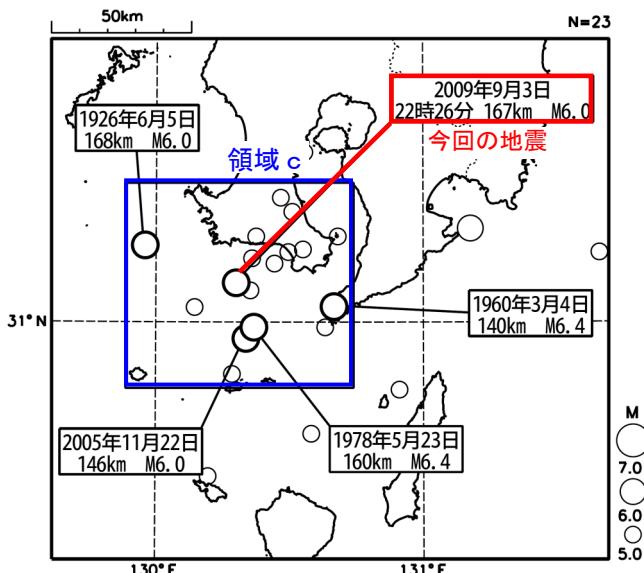
2009年9月3日22時26分に薩摩半島西方沖の深さ167kmでM6.0の地震（最大震度4）が発生した。発震機構はフィリピン海プレートの沈み込む方向に張力軸を持つ型で、フィリピン海プレートの内部で発生した地震である。余震活動は低調である。

1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域b）は、稍深発地震の活動が活発な領域で、2005年11月22日にM6.0の地震（最大震度3）が発生している。

領域b内の地震活動経過図、回数積算図

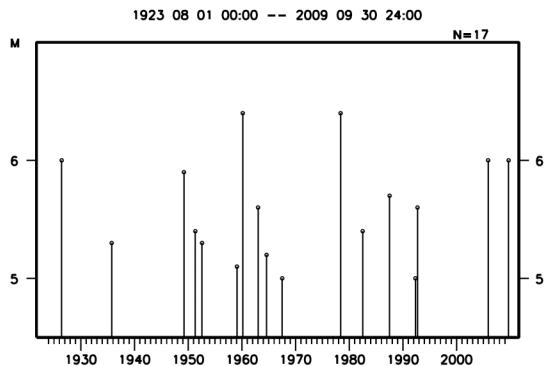


震央分布図（1923年8月1日～2009年9月30日、深さ100～200km、M≥5.0）



1923年8月以降、今回の震央周辺（領域c、深さ100～200km）ではM6.0以上の地震が5回発生している。

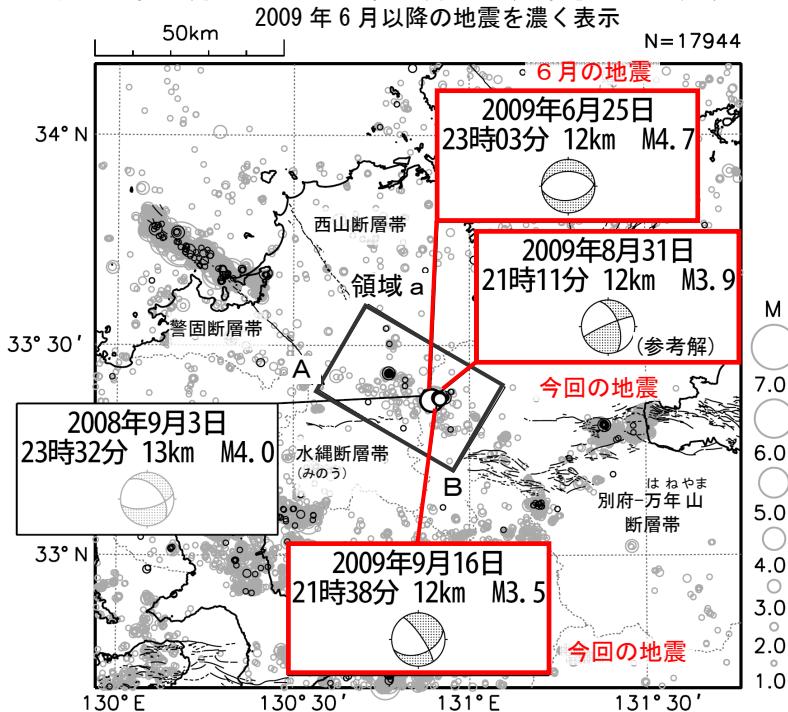
領域c内の地震活動経過図



大分県西部の地震活動

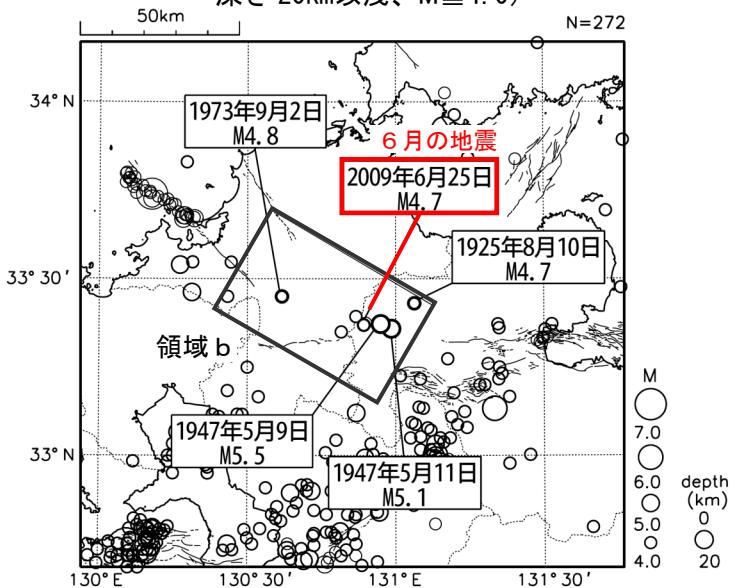
震央分布図

(1997年10月1日～2009年10月5日、深さ20km以浅、M≥1.0)



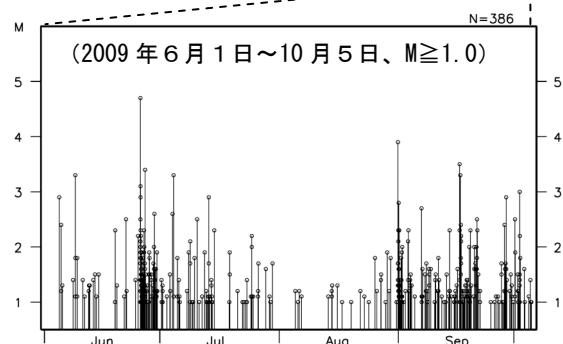
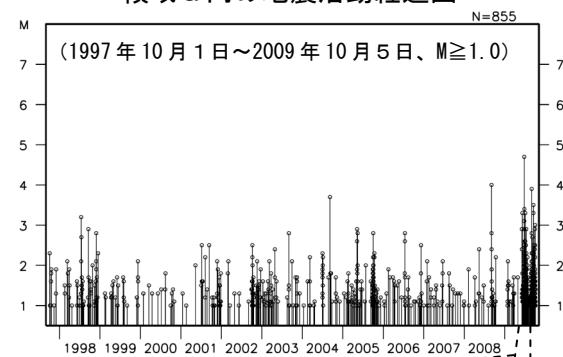
6月から7月の活動では、活動域が北西側と南東側に分かれていたが、8月下旬以降のほとんどの地震は南東側で発生している。

震央分布図(1923年8月1日～2009年10月5日、深さ20km以浅、M≥4.0)

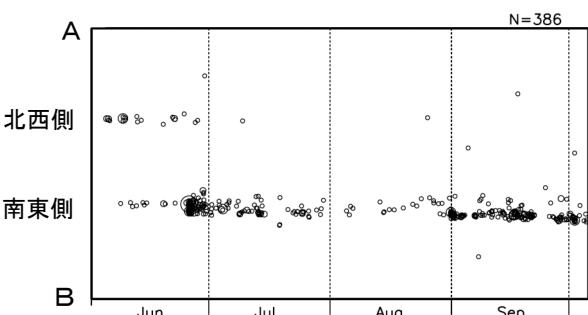


大分県西部において、6月より地震活動が継続している。2009年6月25日23時03分に深さ12kmでM4.7の地震（最大震度4）が発生した後、一旦は落ち着く方向へ向かっていたが、8月下旬頃より再び活発となり、8月31日21時11分にM3.9の地震、9月16日21時38分にM3.5の地震（いずれも最大震度3）が発生した。今回の震源付近では、2008年9月3日に、M4.0の地震（最大震度3）が発生している。

領域a内の地震活動経過図



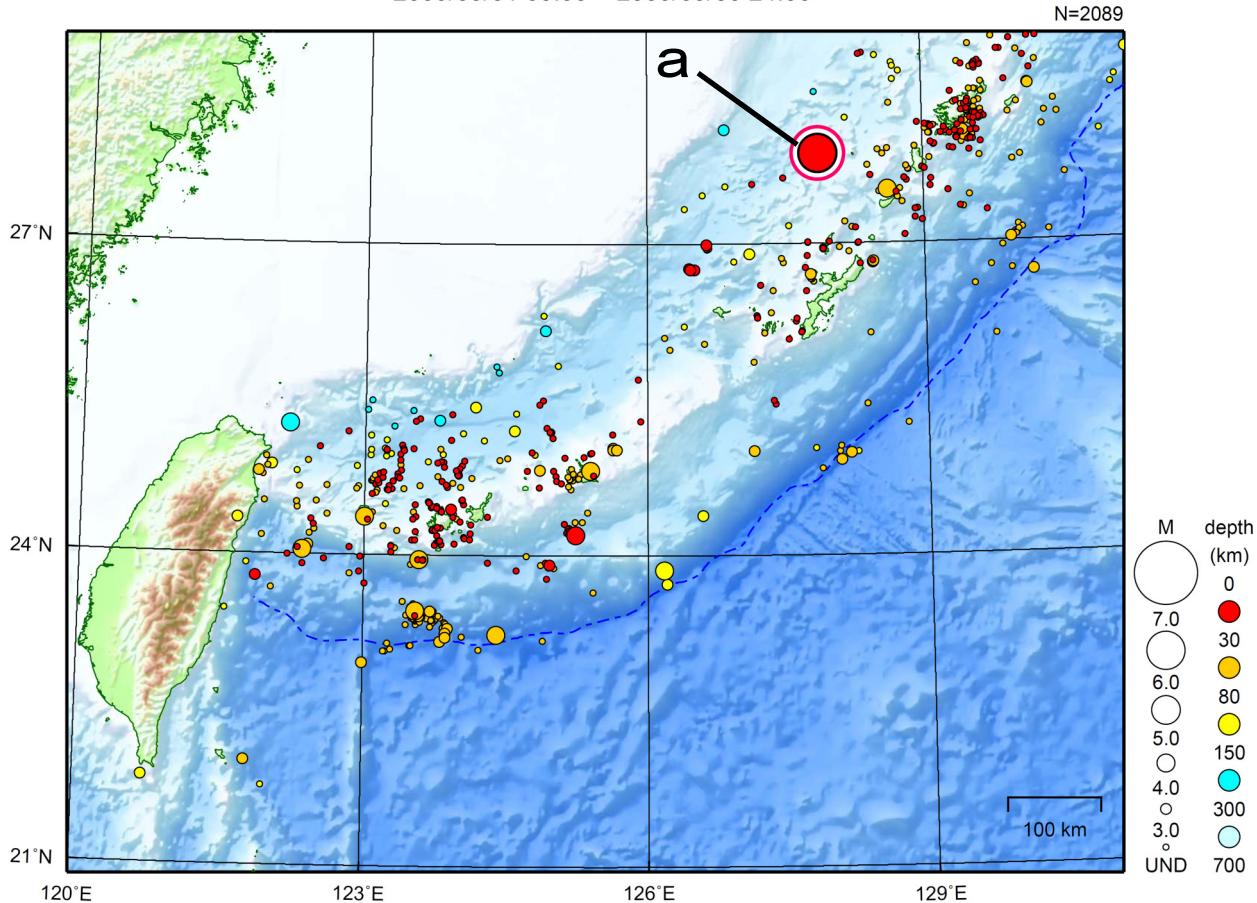
領域a内の時空間分布図
(2009年6月1日～10月5日、A-B投影)



今回の震源付近（領域b）の1923年以降の活動を見ると、M6.0以上の地震は発生していない。この領域で最大のものは、1947年5月9日のM5.5の地震で、壁の亀裂や崖崩れなどの被害が生じている（日本被害地震総覧による）。

沖縄地方

2009/09/01 00:00 ~ 2009/09/30 24:00



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

a) 9月 29 日に沖縄本島北西沖で M6.1 の地震（最大震度 3）が発生した。

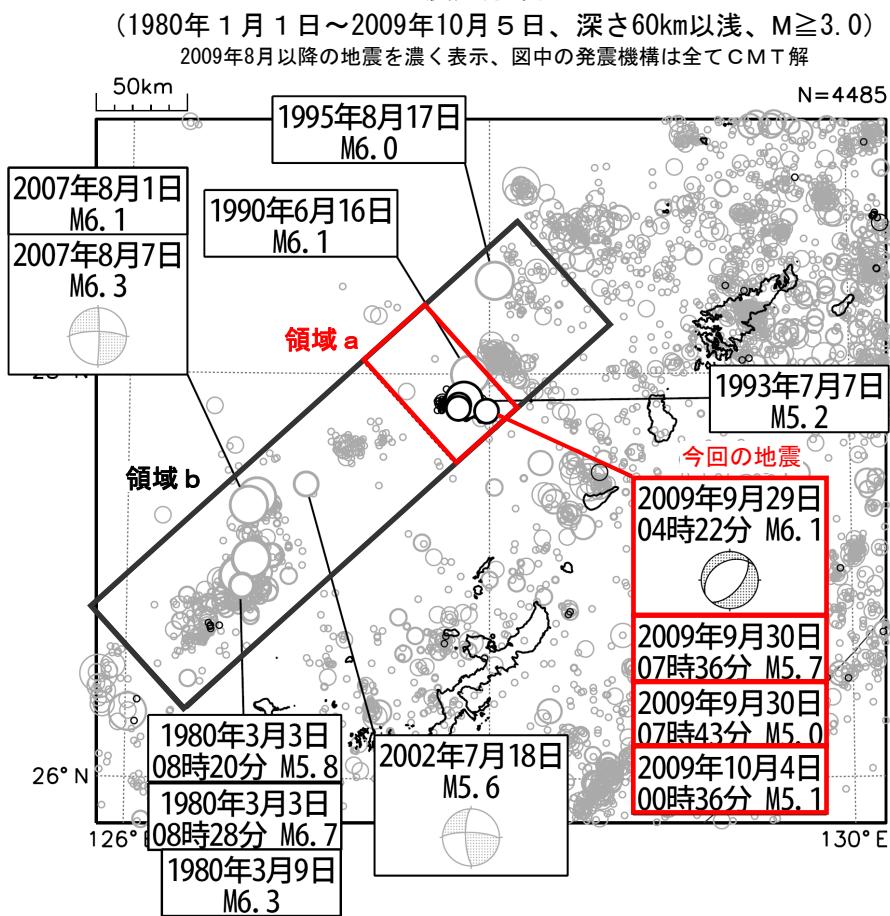
(上記期間外)

10月 4 日に台湾付近で M6.3 の地震（日本国内：最大震度 2）が発生した。

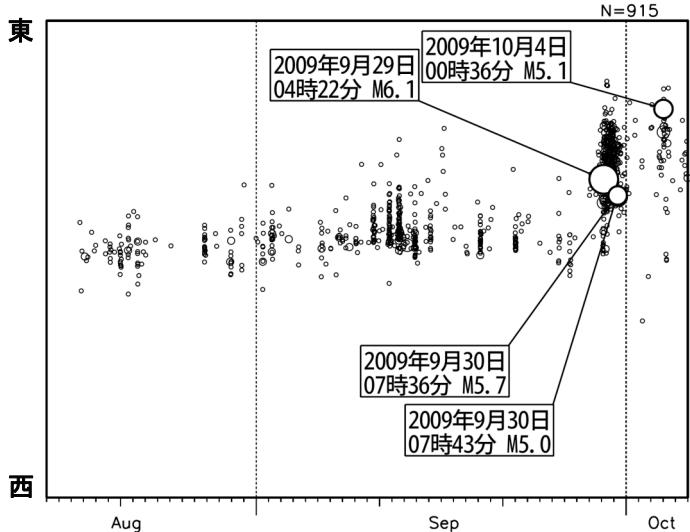
〔上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上のいずれかに該当する地震。〕

9月29日 沖縄本島北西沖の地震

震央分布図

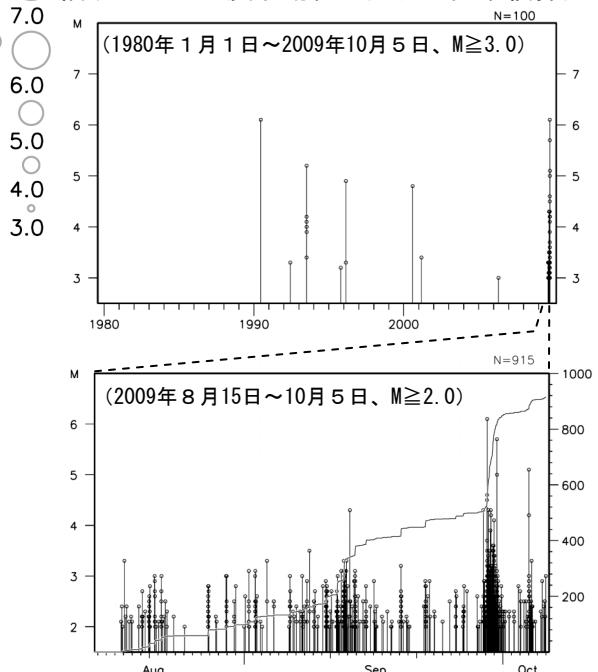


領域 a 内の時空間分布図
(2009年8月15日～10月5日、M \geq 2.0、東西方向投影)



2009年9月29日04時22分に沖縄本島北西沖の浅いところで、M6.1の地震（最大震度3）が発生した。この地震の発震機構（CMT解）は、北西～南東方向に張力軸を持つ型で、沖縄トラフ拡大の方向と調和的である。この地震の震源付近では、8月中旬頃から地震活動が発生しており、M3～4程度の地震が度々発生していた。今回の震源付近（領域 a）でM5.0以上の地震が発生したのは、1993年7月7日のM5.2の地震以来である。

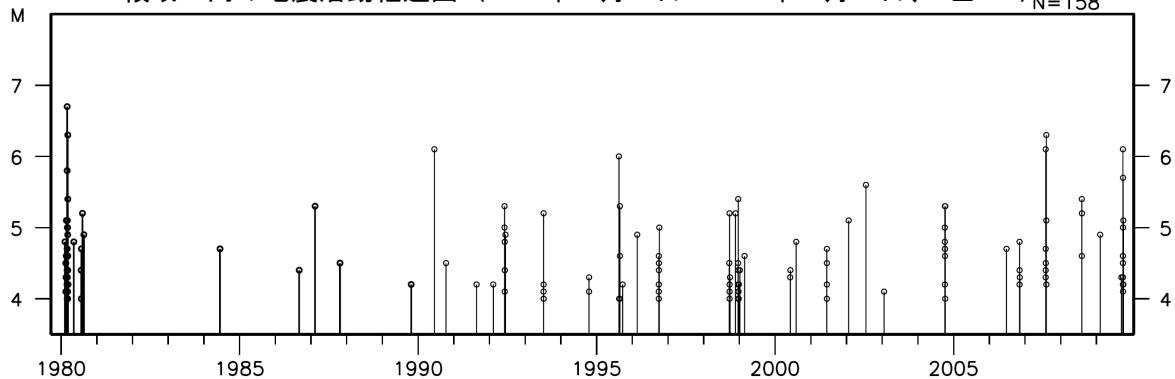
領域 a 内の地震活動経過図及び回数積算図



今年8月からの活動の時空間分布（左図）を見ると、9月29日のM6.1の地震は、8月からの活動の場所よりも少し東よりであるように見える。

今回の震源を含む沖縄トラフ沿いの領域（領域 b）では、M5～6程度の地震が数週間のうちにまとまって発生するような活動が過去に何度も見られている。

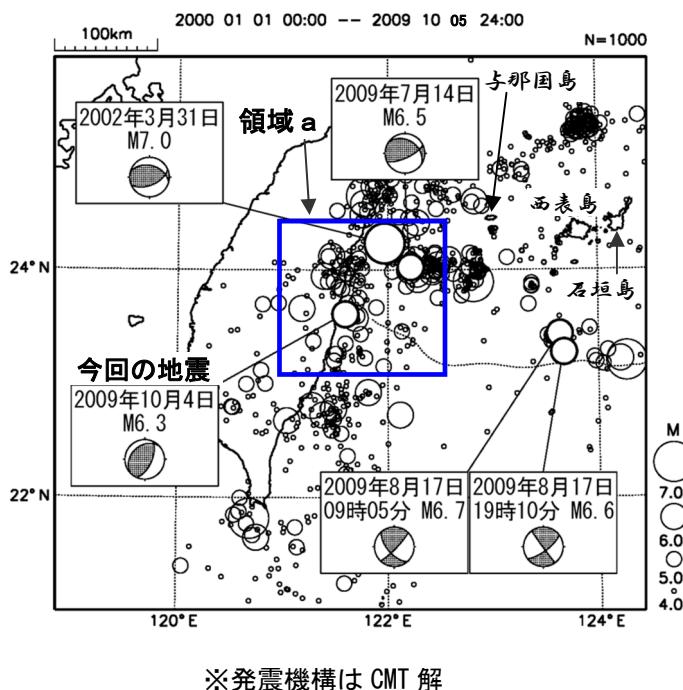
領域 b 内の地震活動経過図 (1980年1月1日～2009年10月5日、M \geq 4.0) N=158



気象庁資料

10月4日 台湾付近の地震

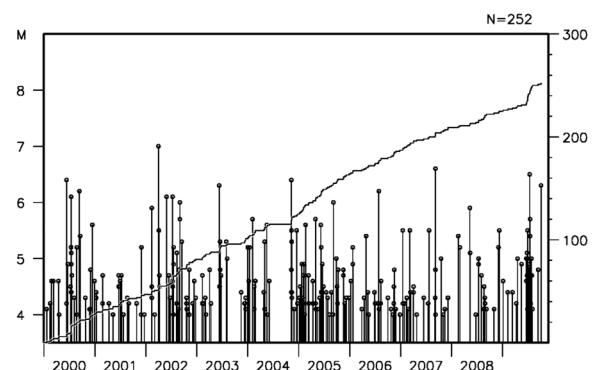
震央分布図
(2000年1月以降、 $M \geq 4.0$ 、深さ150km以浅)



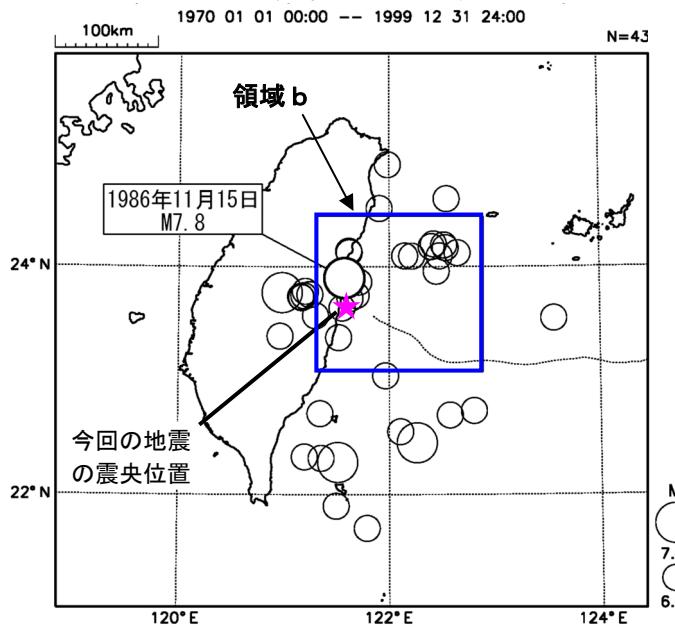
2009年10月4日02時36分に台湾付近でM6.3の地震（日本国内で最大震度2）が発生した。発震機構（CMT解）は西北西—東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。

2000年以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近は地震活動が活発なところで、M6.0を超える地震がたびたび発生しており、最近では2009年7月14日にM6.5の地震（国内で最大震度3）が発生した。

領域a内の地震活動経過図と
回数積算図

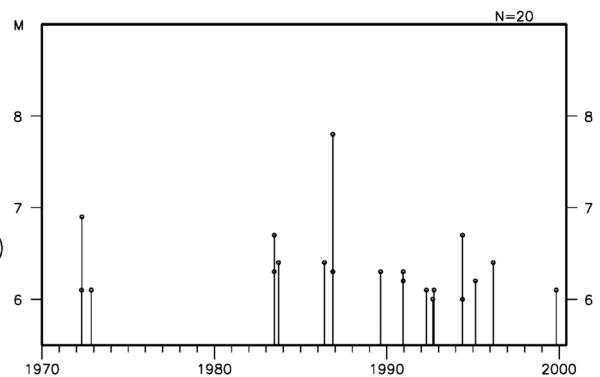


震央分布図（震源はUSGSによる）
(1970年1月1日～1999年12月31日、
 $M \geq 6.0$ 、深さ150km以浅)



1970年以降の活動を見ると、この付近では1986年11月15日にMs7.8（米国地質調査所によるマグニチュード）の地震が発生し、日本国内で最大震度3、宮古島平良で津波の最大の高さ30cmを観測した。また、現地では死者13名の被害を生じた（被害は宇津の「世界の被害地震の表」による）。

領域b内の地震活動経過図



9月30日 サモア諸島の地震

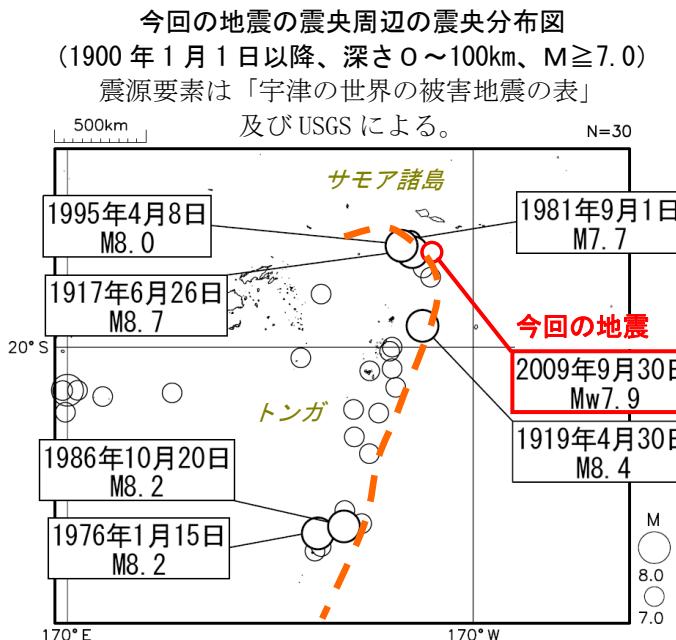
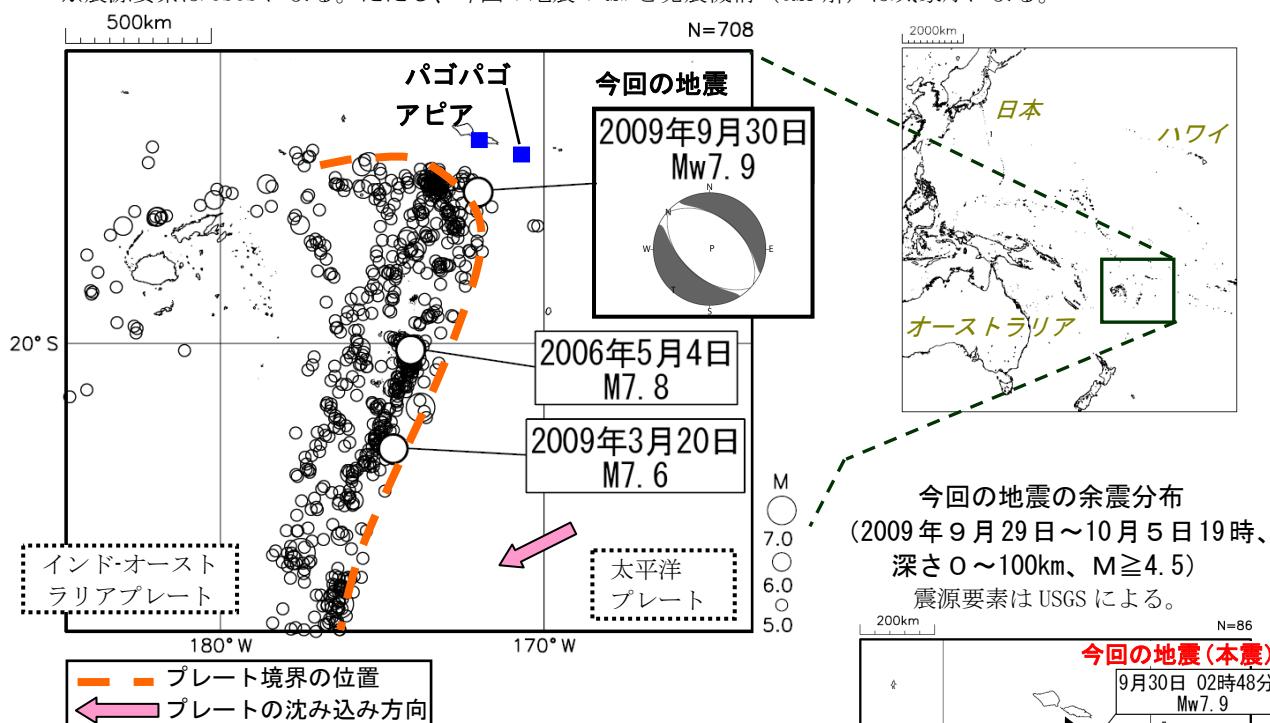
2009年9月30日02時48分(日本時間)、南太平洋のサモア諸島でMw7.9(震源は米国地質調査所[USGS]、Mwは気象庁による)の地震が発生した。気象庁は、同日03時18分に「遠地地震に関する情報」を発表し、同日09時00分に北海道から九州までの太平洋沿岸(内湾を除く)と小笠原諸島、沖縄県に津波注意報を発表した。

この地震により、サモア諸島では最大4~6mの津波が到達し(AP通信による)、サモア、米国領サモア、トンガであわせて168人以上が死亡している(10月7日現在、USGSによる)。

この地震の発震機構(気象庁によるCMT解)は北東-南西方向に張力軸を持つ正断層型であり、太平洋プレートの内部で発生した地震であると考えられる。今回の地震の震源周辺では、1995年4月8日にM8.0の地震が発生している(「宇津の世界の被害地震の表」による)。なお、1995年の地震では、今回の地震に比べて津波は小さく、震源に近いパゴバゴで観測された津波の高さは約0.1mであった。また、1917年6月26日にはM8.7の地震が発生し、サモア諸島で最大12mを超える津波が観測された(米国海洋大気庁[NOAA]による)。

震央分布図(2000年1月1日~2009年9月30日、深さ0~300km、M≥5.0)

※震源要素はUSGSによる。ただし、今回の地震のMwと発震機構(CMT解)は気象庁による。



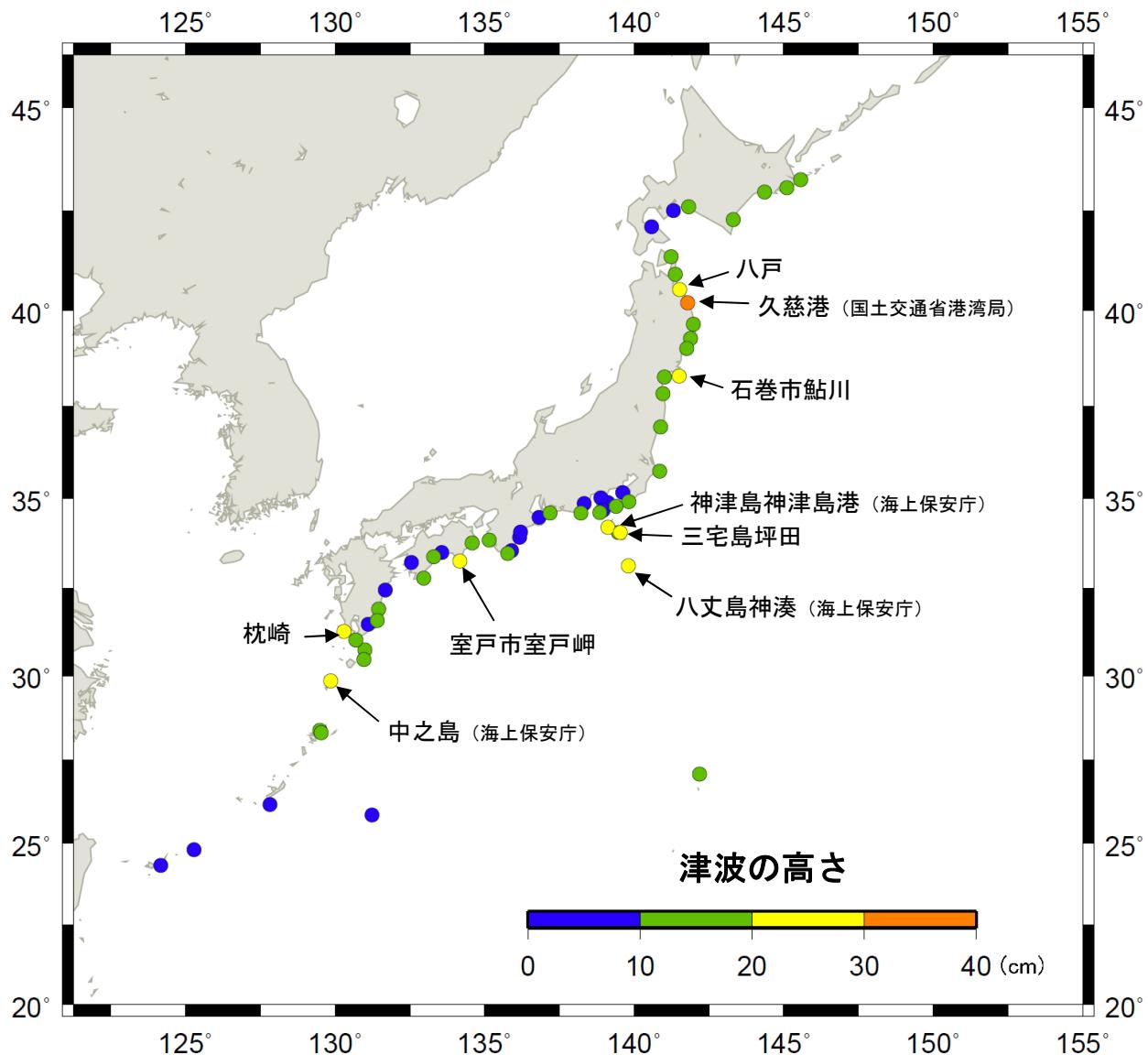
年月日	震源	M	津波波高
1917年6月26日	サモア諸島	8.7	12.2m
1919年4月30日	トンガ	8.4	2.5m
1981年9月1日	サモア諸島	7.7	1.0m
2009年9月30日	サモア諸島	7.9	2.2m

※本資料中の今回の地震のMwはすべて気象庁によるモーメントマグニチュードである。

気象庁作成

9月30日のサモア諸島の地震による津波（日本国内の観測値）

各検潮所において観測した津波の最大の高さ（津波を観測した点のみ表示）
※国土交通省港湾局、国土地理院、海上保安庁、宮崎県の検潮所の記録を含む。



日本国内の主な検潮所での津波の最大の高さ（最大の高さ20cm以上）

※値は速報値であり、後日変更される場合がある。

津波情報発表地点名	所管	最大の高さ	
		発現時刻	高さ(cm)
八戸	気象庁	30日16時41分	20
石巻市鮎川	気象庁	30日17時11分	21
三宅島坪田	気象庁	30日17時58分	25
室戸市室戸岬	気象庁	30日18時35分	20
枕崎	気象庁	30日19時26分	21
久慈港	国土交通省 港湾局	30日16時47分	36
神津島神津島港	海上保安庁	30日17時44分	23
八丈島神湊	海上保安庁	30日16時28分	23
中之島	海上保安庁	30日20時24分	20